Machine Translated by Google

なぜこの本を読む必要があるのですか?

神は私たちに、「すべてに目を向け、良いことをしっかりと持ちなさい」とアドバイスしています。この本で取り上げられているテーマについての真実はすでにすべて知っているので、読む必要はないと思われるかもしれません。しかし、神の言葉は次のように述べています。誰が彼を知るでしょうか？」たとえ私たちが、あるトピックについてすでにすべてを知っている、またはそれについての真実を知っていると思っているとしても、神は私たちが知らず知らずのうちに間違いを犯す可能性があることをご存知であるため、私たちが概念を見直すよう勧めておられます。終わりの日の教会の霊的状態について、イエスはこう言われました。貧しく、目が見えず、裸である。」イエスは、終わりの日の教会は真理を持っていると思っていても、真理を持っていなかった人々で構成されることをご存じです。彼らは間違っていました、そして彼らはそれを知りませんでした。だからこそ彼は、彼らについて「あなたは知らない」と言うのです。

この終わりの日に私たちは神の教会の一員であると信じていますか?あなたはそれを信じていますか？したがって、私たちはイエスが描写した、騙されて「知らない」人々の一員である可能性があります。したがって、私たちはこの本を読んで、自分の信念が聖書のテストに耐えられるかどうかを確認する十分な理由があります。 「すべてを見て、良いものをしっかり持ちなさい」という神のアドバイスに留意しましょう。

私たちは神性を学ぶことを恐れるべきでしょうか？

しばらく神の言葉を読んだり、教会の礼拝に参加したりしたことがある人なら誰でも、神が誰であるか、または神性を構成する人々の数についての個人的な概念を持っている可能性があり、非常に高い確率であります。また、彼らは信念のためにある種の恐怖を抱いている可能性もあり、神に対して罪を犯すことを恐れて、このテーマを研究することを恐れているのではないかと考えています。この恐怖はいくつかの理由で生じる可能性があります。このセクションでそれらすべてに言及するつもりはありませんが、このトピックの研究に対する最も一般的な反対意見のいくつかに言及したいと思います。

聖霊に対する罪

多くの、おそらく大多数のクリスチャンは、聖霊は神であり、「聖なる神の三位一体」の一部であると信じています。したがって、彼らは聖霊に対して罪を犯すことを恐れて、聖霊の「人柄」や働きに関するあらゆる資料を学ぶことを恐れています。
なぜなら、聖書によれば、この罪は許されないものだからです。

「真実に言いますが、人の子らは、その罪も冒涜もすべて赦されます。しかし、聖霊を冒涜する者は永遠に赦されることはありません。その人は永遠の罪を犯しているからです。」マルコ 3:28、29

しかし、聖霊に対する罪が何であるかを理解すると、この恐れは消えます。イエスはなぜ聖霊を冒涜する者は赦されないと言ったのでしょうか?上に示した聖句に続く聖句は次のように説明しています。

Machine Translated by Google

「それは彼らが『彼は汚れた霊に取り憑かれている』と言われたからです。」マルコ 3:30

パリサイ人は、イエスが奇跡を行ったとき、汚れた霊（悪霊)に取り憑かれていたと言いました。私たちはイエスが神の力によって奇跡を行ったことを知っています(使徒2:22)。パリサイ人たちは、イエスがサタンの力によってそうしたことをしたと言うことで、神の霊の働きをサタンのせいだと考えていた。しかし、彼らは無知でそうしたわけではありません。イエスの働きが聖書と一致しているという説得力のある証拠を持っていたからです。

神が「罪」を有罪と認められるのは聖霊です（ヨハネ16 :8）。パリサイ人は神の霊の働きをサタンのせいにすることで、神が彼らに罪を有罪とさせる手段を意図的に拒否していました。神が彼らを悔い改めに導く手段は御霊のほかにありませんでした。パリサイ人は神が備えてくださった手段を拒否したため、自分の罪を悔い改めず、したがって赦されることができませんでした。だからこそ彼の罪は許されなかったのです。パリサイ人の罪は、聖霊の働きを自発的にサタンのせいにしたことだった。イエスは、彼らがこのようなことをした後、聖霊に対して罪を犯していると言われました。多くの人は、聖霊に対して罪を犯すことは聖霊の「人格」や「神性」を否定することになると理解しています。しかし、神の御言葉によれば、そうではないことがここで分かりました。

神を否定する – 使徒 5:3、4

多くの人が抱くもう一つの恐れは、聖霊の「神性」に疑問を抱いて神を否定することです。彼らがこのように考えるようになった主文は使徒行伝 5 章にあります。

「それからペテロは言いました、アナニア、なぜサタンはあなたの心を満たして、畑の価値の一部を脇に置き、聖霊に嘘をつくのですか？」 ……あなたは人間に対してではなく、神に対して嘘をついたのです。」使徒 5:3、4

多くの人は、上記の文章に基づいて次のような比較を行っています。

アナニアは聖霊に嘘をついたとき、神にも嘘をつきました。したがって、聖霊は神です。
しかし、この論理は、ある程度は理にかなっているかもしれませんが、使徒行伝の著者が教えた真理やパウロの教えとは一致しません。 20章で彼らが聖霊とは誰であると言っているかを見てください。

「自分自身と、神がご自分の血で買い取られた神の教会を牧するために聖霊があなたたちを監督に任命したすべての群れの世話をしなさい。」使徒 20:28

使徒行伝の著者と上記の聖句の言葉を語った使徒パウロは、聖霊がご自身の血で教会を買い取られた方であると断言しています。
私たちのために血を流したこの人は誰ですか？私たちはイエスになる方法を知っています。使徒行伝の著者は、この箇所で「聖霊」と言ったのはイエスのことを指していました。使徒言行録のどこかで「聖霊」という用語を読むとき、著者は私たちが彼と同じ理解を期待しています。つまり、これはご自分のお金で教会を買い取ったイエスのことです。

Machine Translated by Google

血。この聖句が私たちに伝えているのは、アナニヤはペテロに対して嘘をついていると思っていても、実際にはイエスと神に対して嘘をついていたということです。アナニアの嘘をペテロに明らかにしたのは、神でした。そして、アナニヤが嘘をついたのは、彼とイエスの両方に対してでした。この状況は神の啓示の原理を示しています。彼はイエスに啓示を与え、イエスはそれを人々に送ります。この原則は黙示録 1 章に示されています。

「イエス•キリストの啓示。間もなく起こるべき事柄をその僕たちに示すために神が与えたもの」 Apoc. 1:1。

順序に注意してください:

(1) 神 - 以下に啓示を与えます。
(2) イエス – 自らの意志を示す人
(3) しもべたち（使徒行伝 5 章の場合、しもべはペテロでした）。

アナニアは僕（ペテロ)に嘘をついていると思っていましたが、イエス（聖霊)に対して、そしてイエスを通して啓示を与えてくださった神に対して嘘をついているとは知りませんでした。

聖霊という用語が使徒行伝の本文だけを指すのではなく、イエスを指すことは明らかです。パウロはコリントの信者たちに、自分はこう信じていると宣言しました。

「というのは、今日に至るまで、彼らが古い契約を読んでいるときでさえ、同じベールが残っており、キリストにあってそれが取り除かれているということが彼らに明らかにされていないからです。しかし今日でも、モーセの手紙が朗読されるとき、彼らの心にはベールがかぶせられます。しかし、彼らの誰かが主に改宗すると、ベールは彼らから取り除かれます。今、主は霊である」IIコリント 3:14-17

パウロは、ユダヤ人の誰かが主であるキリストに改宗したとき、そのベールは取り去られたと言いました。そして彼は、この主、キリストは御霊であると断言します。テキストは明確です。

聖霊の慰め主

パウロがイエス•キリストが聖霊であると信じていることがわかりました。神の言葉は、パウロがこの真理を人からではなく、イエスご自身から学んだことを宣言しています。

「しかし、兄弟たち、私が宣べ伝えた福音は人によるものではないことを知っておいてください。私はそれを受け取ったり、人から学んだのではなく、イエス•キリストの啓示を通して伝えたからです。」ギャル。 1:11、12

私たちは、イエスがご自身の教えに矛盾していないことを知っています。イエスはまだ地上におられたとき、聖霊の働きについて語り、ご自身を「慰め主」と呼びました。

「そして私は父に祈ります。そして父はあなたに別の助け手を与えてくださいます。彼が永遠にあなたと一緒にいるように、真理の御霊です。世界は彼を受け入れることができません。なぜなら、彼を見たり、知ったりしないからです。」あなたは彼を知っています、なぜなら彼はあなたとともに住み、あなたの中にいるからです。」ヨハネ 14:16,17

Machine Translated by Google

イエスが弟子たちに、彼らはすでに慰め主、つまり真理の御霊を知っていると語り、その理由を次のように述べていることに注目してください。

「あなたは彼を知っています。なぜなら彼はあなたとともに住み、あなたの中にいるからです。」ヨハネ 14:17

3年半も弟子たちと暮らしていたのは誰でしょうか。イエスは彼らと一緒に生きた人でした。イエスは弟子たちに、慰め主について話すとき、それはご自身のことを話していることを明確にされました。イエスの次の言葉はこの考えを裏付けています。

「私はあなたたちを孤児にはしません、私はあなたのところに行きます。」ヨハネ 14:18

上の文の中で、イエスは弟子たちに、ご自分が慰め主として戻って来られる方であることを明らかにされました。しかし、それでもイエスが再臨について言及していると考える人もいるかもしれません。弟子たちがそのような結論に達するのを防ぐために、イエスはこう続けます。

「しかし、しばらくの間、世界はもう私を見なくなるだろう。しかし、あなたは私に会うでしょう。私が生きているから、あなたも生きるのです。」ヨハネ 14:19

聖書は、イエスが二度目に地上に来るとき、「すべての目がイエスを見るだろう」と宣言しています。
（黙示録 1:7）。これには世界中のすべての人が含まれます。しかし、慰め主の到来について話したとき、イエスはこう言われました。しかし、あなたはわたしを見るでしょう。」イエスが地上への再臨のことを言っているのではなく、むしろ信者だけがイエスを受け入れる慰め者としての来臨について言及していたことは明らかです。イエスが「別の」慰め主を遣わすと言ったのは、イエスご自身ではなく他の誰かのことを言っているのではないかと信じる人もいますが、これまで見てきたように、イエスご自身は、これはイエスが教えたかったことではない、と説明されました。 「他者」とは彼自身のことを指します。イエスはしばしば自分自身を三人称単数で呼びました。 「私」と言う代わりに、彼は自分自身を別の誰かとして話しました。いくつかの例を参照してください。

「そして彼らが山から下りてくると、イエスは彼らに命じられた。『人の子が死人の中からよみがえるまでは、その幻を誰にも話してはいけない』。」マタ 17:9

「ヨナが三日三晩大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩地の中心にいることになるからです。」マタ 12:40

「彼らが話したり議論したりしていると、たまたまイエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に行かれた。しかし、彼らの目は、あたかもイエスだと認識できないかのようでした。 ...そのとき、イエスは彼らに言われました。「預言者が言ったことをすべて信じるなんて、愚かで心の遅い人たちよ！」
キリストが苦しみを受けて栄光に入るのは適切ではなかったでしょうか？そしてモーセから始まり、すべての預言者を経て、すべての聖書の中で自分について書かれていることを彼らに説明しました。」リュック。 24:15、16、26、27

上の聖句の中でイエスが言及した「人の子」と「キリスト」とは誰でしょうか?
彼自身;しかし、彼はあたかも別人であるかのように話しました。これは、イエスご自身に栄光を招かないためのイエスについての話し方であり、私たちが模倣する価値があります。慰め主に関するヨハネ 14:16 の場合にも同じことが当てはまります。キリストはご自身のことをあたかも他人のことであるかのように話します

Machine Translated by Google

人（それが「その他」という言葉を使用する理由です）。キリストを知っていて、キリストの話し方をよく知っている人は誰でも、キリストがご自身について語られたことを知っています。

コンフォーターについてもっと知っておくと便利です。私たちは彼がイエスであることを知っていますが、彼は実際にイエスなのでしょうか、それともそうではないのでしょうか?イエスが弟子たちに語られた次の言葉を注意深く読んでみましょう。

「慰め主…あなたは主を知っています。なぜなら、主はあなたとともに住み、あなたの中にいてくださるからです。」ヨハネ 14:16,17

掛け布団はどこにありますか？弟子たちの中では。天に戻った後、キリストはご本人として天にいて、祭司および人々の仲介者としての役割を果たします。使徒たちはこのことを知っていたので、パウロは次のように書きました。

「さて、私たちが述べたことの要点は、聖所と主が定められた真の幕屋の奉仕者として、天の陛下の御座の右に座していたこのような大祭司がいるということである」人間ではなく建てられたものである……というのは、キリストは、真の聖所の一種である手で造られた聖所には入らず、天そのものに入り、今、私たちのために神の前に現われるからである。」 8:1,2; 9:24

キリストは個人的に天にいて人々のために執り成しをする一方で、御霊によって信者の心の中に住まわれるでしょう。慰め主は確かにキリストですが、それは直接ではなく、キリストの御霊としてです。パウロはまさにこれを理解していました。

「そして、あなたたちは息子であるため、神は御子の御霊を私たちの心に送ってくださいました。」ガル。 4:6

「そして、もしキリストの御霊を持たない人がいるなら、その人は彼のものではありません。」ロム。 8:9

キリストは御霊を通して信者の心の中に住まわれるでしょう。御霊は利己的な意志を抑制し、すべての考えをキリストに服従させます。パウロは、慰め主であるキリストの御霊を心に受けることによって、「私はもう生きていないが、キリストが私の中に生きておられる」と言うことができました。 2:20。

「霊」という言葉の聖書的な意味は何ですか？

古代の異教の宗教とスピリチュアリズムは、霊がそれと結びついている人の体から独した存在であると教えています。しかし、これは「霊」という言葉の聖書の定義ではありません。原文から「霊」と訳されている言葉は、「息」、つまり風も意味します。ヨハネ 20 章では、このことが非常に明確に教えられています。

「それからイエスは再び彼らに言われた、『あなたたちに平和がありますように！』父が私を遣わしたように、私もあなたを遣わします。そして、これを言い終えると、イエスは彼らに息を吹きかけて、「聖霊を受けなさい」と言われた。」ヨハネ 20:21,22

イエスは弟子たちに息を吹きかけて、「聖霊を受けなさい」と言われました。弟子たちにとって、聖霊はイエスの息のようなものであり、人間ではないことは明らかでした。

Machine Translated by Google

スピリチュアリズムが言うように、身体から独しています。聖書は、この息の性質（何でできているのか)についての正確な定義を与えていませんが、それが信者に罪、義、裁きを確信させ（ヨハネ16:8）、人生を導き導くものであると述べています。信者たちに（使徒 16:7）、人間に神の働きをする力を与え（ Iコリント 7:7-10）、私たちの邪悪な欲望を抑制し（ガラテヤ 5:16）、私たちの生活を変えます（ガラテヤ 5:22、23）。 。言い換えれば、それは私たちが彼について知る必要があることを明らかにします。

神の霊とキリストの霊

キリストの御霊が慰めの御霊であり、キリストが弟子たちに吹き込まれたことを私たちはすでに見てきました。しかし、聖書の中で「神の霊」という言葉を時々読むことがあります。

「しかし、確かに神の御霊があなたの内に住んでいるのであれば、あなたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいます。そして、もしキリストの御霊を持たない人がいるなら、その人は彼のものではありません。 ……もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊があなたがたのうちに住んでいるなら、キリスト•イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたの内に住む御霊を通して、あなたがたの死ぬべきからだにも命を与えてくださるでしょう。」ローマ 8:9、11

上の文章では、キリストを死者の中からよみがえらせた父の「霊」と、キリストの別の「霊」について明確に言及されています。それらは 2 つの異なるスピリットでしょうか、それとも両方が共有する同じスピリットでしょうか?イエスはヨハネ 15 章 26 節でこの主題に光を当てています。

「しかし、助け主が来るとき、わたしは父からあなたたちに送ります。それは、彼から出る真理の霊です。」ヨハネ15:26

イエスは、ご自分が遣わす慰めの御霊、御霊は御父から来て御父から出たものだと言われましたが、慰めの御霊も神の御霊であることは明らかです。イエスはどのようにして父の御霊を私たちに送ってくださるのでしょうか ?使徒行伝を読んでみましょう。

「このイエスは神がよみがえらせた方であり、私たち皆がその証人です。それゆえ、神は神の右に高められ、父から聖霊の約束を受けて、あなたが見聞きするものを注いだのである。」使徒 2:32、33

「神はナザレのイエスに聖霊と力を注がれ、イエスはどこにでも行き、善を行い、悪魔に抑圧されているすべての人を癒しました。神が共におられたからです。」使徒 10:38

聖書は、イエスが父から聖霊を受けたと宣言しています。神はイエスに御霊を注ぎ、イエスはそれを息を吹きかけて弟子たちに注ぐことができました。イエスが神の霊を受けたことから、神の霊とキリストの霊が同じであることは明らかです。イエスご自身も、御父のものは御父のものであると言いました。

「イエスはこれらのことを話し終えると、目を天に上げて言われた、「父よ、時が来ました。父よ、その時が来ました」。 「あなたの御子を讃えなさい。御子があなたの栄光を讃えられるように……私のものはすべてあなたのものであり、あなたのものは私のものです。」ヨハネ 17:1、10

Machine Translated by Google

したがって、イエスの持つ御霊は御父の御霊です。

「からだも霊も一つしかない」エペソ4:4

父の御霊と御子の御霊が一つということはありません。どちらも同じです。次に、等式が成りつことがわかります。

神の霊 = キリストの霊 (1 つの霊のみ)。

聖霊は人ですか？

弟子たちは聖霊が人格であることを理解していませんでした。このような概念を受け入れるべきでしょうか?神の御言葉を調べてみましょう。

「このイエスは神がよみがえらせた方であり、私たち皆がその証人です。それゆえ、神は神の右に高められ、父から聖霊の約束を受けて、あなたが見聞きするものを注いだのである。」使徒 2:32、33

上の箇所は、ペンテコステの日に弟子たちに聖霊が注がれたことについて語っています。その中には、キリストの聖霊が人格としてここに示されているかどうかを識別するのに役つ 2 つのキーワードがあります。それは、「注がれる」と「これ」です。

この聖句には、キリストが弟子たちに聖霊を「注いだ」と書かれています。私たちは誰かに水、油、牛乳などをかけることができます。しかし、人をこぼしてもいいでしょうか ?いや、無理だ。注がれた聖霊が人ではないことは明らかです。ペンテコステの時に起こったように、一人の人間が 120 人に「注ぎ込まれる」などということはあり得ないのです。

この箇所の中で使徒は、聖霊に言及しながら、イエスがあなたが見ているような「これ」を注いだとも述べています。 「これ」という言葉は人を指すのに使えますか？
見てみましょう。誰かがあなたに言及するときに、「それで、「これ」が私たちのところに来たのです」と言いたいですか ?気分を害したことさえあるかもしれませんよね？ 「これ」という言葉は、非個人的な物体や物事を指すために使用されますが、人を指すことは決してありません。使徒がキリストの聖霊を指すために「これ」という言葉を使っていることは、彼が人間ではないことを示しています。もし彼が神聖な人間であれば、使徒は彼女に対してこれほど無礼にはならないだろう。

さらに、私たちは聖書の中で聖霊の象徴が示されていることを思い出します。
水 (ヨハネ 7:37-39)、油 (ゼカエル 4:2-6) – 常に形のないものに似ています。彼らは決して人のことを覚えていません。

聖霊の個人的な特質

Machine Translated by Google

聖書のさまざまな場所で、聖霊によるとされる個人の行動への言及が見つかります。聖霊がうめき、とりなし、悲しみ、語りかける、などと言われている箇所が見つかります。どういう意味でしょうか？それらのいくつかを分析すれば、理解するのは難しくありません。聖書は、人間の霊と神の霊を理解するのに役つ比較を示しています。この比較と、聖書が人間の霊についてどのように言及しているかをよく理解してみましょう。そうすれば、聖霊に関連する個人の特質を表す次の聖句を理解するのは簡単でしょう。

「人間の中にある自分自身の霊以外に、人間のことを誰が知っているだろうか？神のことも同様であり、神の御霊以外には誰も知りません。」 Iコリント 2:11

人間の精神が人間から独した存在ではないことはすでに見てきました。したがって、上で使用した「霊」という言葉はこれを指すものではありません。よく読むと、「霊」という言葉が人間の心を指すのに使われていることがわかります。
5節後、コリント人への手紙の著者は、次のように述べて、これが主の言いたかったことであることを確認しています。しかし、私たちはキリストの心を持っています。」 Iコリント 2:16。

実際、上記のテキストの「スピリット」という単語を「マインド」に置き換えると、テキストが明確になることがわかります。

「人間の中にある自分の精神（自分の心)以外に、人間のことを誰が知っているだろうか？神のことも同様であり、神の御霊以外には誰も知りません。」 Iコリント 2:11

この聖句で人間に言及されている「霊」という言葉の意味を理解すると、同じ聖句で次のように説明されているように、神に当てはめたときのその意味を容易に理解できます。

「人間の中にある自分自身の霊以外に、人間のことを誰が知っているだろうか？神のことも同様であり、神の御霊以外には誰も知りません。」 Iコリント 2:11

人間のことは心以外には誰も知りません。同様に、神のことも「霊」、つまり神の心以外には誰も知りません。 5節後、著者はこれがまさに私たちに理解してほしかったことであることを確認しています。

「主の御心を誰が知って、主に教えられるでしょうか？」 Iコリント 2:16

「スピリット」という言葉が比喩的な意味で使われたことは明らかです（この場合は「心」を表します）。これが起こる唯一の箇所ではありません。他を見る
ケース:

「…アハブは不満と憤慨を抱きながら彼の家にやって来た。…しかし、彼の妻イゼベルが彼のところに来ると、彼女は彼に言った。「あなたがそんなに自分の精神に不満を抱いていて、パンを食べないというのはどういうことですか？」。列王記上 21:5

Machine Translated by Google

アハブ王は嫌悪感を抱き、嫌悪感を抱いていました。 「あなたの霊は悲しんでいる」という表現は、彼が心の中で悲しんでいたことを示しています。

預言者ヨハネは、自分の心が幻の中に取り込まれたという事実に言及して、自分は「霊」の中にいると言いました。

「主の日、私は霊の中にいた。そして、私の後ろからトランペットのような大きな声が聞こえた。『あなたが見ているもの（彼の心は幻の中にあった)を本に書きなさい。 』」 1:10、11

そしてパウロは信者たちにこう書きました。

「主イエス•キリストの恵みがあなたの霊（思い)とともにありますように。」ピレモン 1:25

聖書が人間の心を指すのに「霊」という言葉を使っていることはすでに見ました。しかし、人間の「精神」について言及し、個人的な行動が人間に帰属するとしている箇所がいくつか見つかります。一例を挙げます。

「というのは、もし私が奇妙な言語で祈るなら、私の霊はよく祈りますが、私の理解は実を結ばないからです。」 Iコリント 14:14

パウロは、心が祈ったという事実に言及して、自分の霊が祈ったと言いました。この節ではその行動はパウロの「霊」によるものとされていますが、実際にはその行動は霊の「所有者」 、この場合はパウロによるものであることが理解されることに注意してください。別の例を見てみましょう。

「だから私たちは安心したのです。そして、私たちのこの慰め以上に、私たちは、皆さんによってその精神が再現されたテトスの満足をさらに嬉しく思っています。」 IIコリント 7:13

ティトゥスの「霊」が再現されたと言われていますが、本文ではティトゥス自身が再現されたという事実について言及していることがわかっています。これと同様の聖書の他の文書を分析すると、一般に、聖書が個人の行動に関連して「霊」という言葉を提示している場合、その行動は霊の所有者に帰すべきであることを示唆していることがわかります。 、「精神」ではありません。この概念を明確にするために、最後の例も示します。

「ネブカドネザルの治世の二年目に、彼は夢を見ました。彼の精神は動揺し、眠りは消えた。 …王は彼らに言った、「私は夢を見ました、そして私の魂はそれを知るのに苦しんでいます。」ダニエル 2:1、3

上の文章では、ネブカドネザルが心を悩ませていたという事実に言及して、彼の霊が悩まされていると書かれていることに注意してください。文中の「霊」による行為は、霊の所有者に属するものとして理解されなければなりません。さらに調査を進めると、個人の行動を神の「霊」によるものとしている箇所にも同じことが言えることがわかります。聖書は、人間自身の行動に言及しながら、人間の霊に起因する個人の行動を示しているのと同じように、行動も示しています。

Machine Translated by Google

神の霊またはイエス•キリストの霊に帰せられる個人の属性。神とイエスによって行われた行為を指します。いくつかの例を分析してみましょう:

- ローマ人への手紙 8:26

「御霊はまた、私たちの弱さを助けてくださいます。なぜなら、私たちはどう祈るべきなのかを知らないからです。しかし、御霊ご自身が、言葉では言い表せないうめき声をあげて、私たちのために大いに執り成してくださいます。」ローマ人への手紙 8:26

上の文の中でパウロは、「霊」が私たちのために執り成してくれると述べています。聖書の規則によれば、その行為は霊を持った人のものとして理解されなければなりません。この場合、その人はキリストです。なぜなら、キリストは神と人との間の唯一の仲介者だからです。パウロ自身が上記の箇所（7節以降)の文脈で、私たちのために執り成してくれるのはキリストであることを明らかにしているので、この規則が真実であることがわかります。

「死んだキリスト•イエス、あるいは復活したキリスト•イエスこそが、神の右におられ、私たちのために執り成してくださっているのです。」ローマ人への手紙 8:34

比較してください: 「御霊ご自身が私たちのために執り成しをしてくださいます」 ロマ 2:13 8:26 = 「私たちのために執り成してくださるのはキリスト•イエスです。」ローマ 4:26 8時34分。

- 私はペッドしました。 1:2

「父なる神の予知に従って、御霊の聖化によって選ばれ、従順になり、イエス•キリストの血を注ぎかけます。恵みと平安が増し加えられますように。」私はペットです。 1:2

「御霊の聖化」という用語は、「御霊」が聖化の働きを行うことを示唆しています。
繰り返しますが、ただ聖書の規則に従い、その行為を御霊の所有者に帰するだけで、私たちは聖書を調和のとれた理解を持つことができるでしょう。私たちを聖化する御霊を送ってくださるのはイエス•キリストです。したがって、上の聖句で述べられている「聖別する」という行為はイエスによるものと考えられます。神こそが私たちを聖化してくださるのです。これは聖書の啓示と一致します。
見て：

「イエスは、死の苦しみのゆえに、神の恵みによってすべての人に死を味わわせるために、栄光と栄誉の冠を授けられた。 ……聖化する者も聖化される者も、すべては一つから生じているからである。それゆえ、神は彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされない」ヘブライ 2:11

上の聖句は、私たちを兄弟と呼ぶことを恥じないイエスが私たちを聖化して下さる方であることを明らかにしています。したがって、私たちがペテロ第一 1章2節の本文を正しく理解していることは明らかです。
イエスはこの聖句で言及されている「聖化する」霊です。

- 使徒 2:4

Machine Translated by Google

「彼らは皆、聖霊に満たされて、御霊が彼らに発語を与えたとおりに、他の言語で話し始めました。」使徒 2:4

上の聖句は、キリストの弟子たちが「御霊が与えてくださったように」異言の賜物を受けたと報告しています。聖書の規則を適用すると、本文中で聖霊によるものとされている贈り物を与える行為は、聖霊の所有者（この場合、ペンテコステで信者に聖霊を送ったキリスト）によって行われた行為であることがわかります。）。この理解は、人間に賜物を与えるのはキリストであると御言葉が宣言しているように、聖書の啓示と調和しています。

「そして、キリストの賜物の割合に応じて、恵みが私たち一人一人に与えられました。そこで彼はこう言います、「彼は高いところに昇ったとき、捕虜を導き、人々に贈り物を与えました。」エペソ人への手紙 4:7、8

誰が人間に贈り物を与えたかに注目してください: 「キリストは...人間に贈り物を与えました」エペソ 14:14 4:7、8

- エペソ人への手紙 4:30

「そして、あなたがたが救いの日のために証印を押された神の御霊を悲しませてはなりません。」
エペソ人への手紙 4:30

上のテキストは、「神の霊」が悲しんでいると報告しており、神ご自身が悲しんでいるという事実に言及しており、ダニエル 2 章で「ネブカドネザルの霊」が動揺していることを暗示するために悩んでいると書かれているのとまったく同じです。聖書の規則によれば、悲しむという行為は御霊の所有者、この場合は神に帰せられなければなりません。

- 使徒 5:3、4

「それからペテロは言いました、アナニア、なぜサタンはあなたの心を満たして、畑の価値の一部を脇に置き、聖霊に嘘をつくのですか？」 ……あなたは人間に対してではなく、神に対して嘘をついたのです。」使徒 5:3、4

「スピリット」という単語に行為が特に起因しているわけではありませんが、このテキストは前のテキストと同様の方法で理解できます。アナニアは聖霊に嘘をついたと言われています。私たちが見た聖書の規則によれば、「あなたは人間にではなく、神に嘘をついた」と言われているので、アナニアは聖霊の所有者、この場合は神ご自身に嘘をついたと理解されています。これは聖書の啓示と調和しています。読んでみましょう。

「そして、この件に関しては、誰も彼の兄弟を怒らせたり、騙したりしないこと。なぜなら、私たちが以前にあなたに警告し、明確に証言したように、これらすべてのことに対して主は復讐者だからです。 したがって、これらのことを拒否する者は人を拒否しているのではなく、あなたに聖霊を与えてくださる神を拒否しているのです。」私はテス。 4:6、8

Machine Translated by Google

アナニアは、自分が売った畑の価値の一部を差し控えることで、兄弟たちを信仰によってだまし取ろうとしました。彼は兄弟たちを欺かないように主の忠告を拒否しました。上の文章は、このアドバイスを拒否する人は人間を拒否しているのではなく、神を拒否していると言っています。使徒行伝 5 章でペテロは、アナニアに対するこの聖書の教えを引用しました。つまり、畑の売却代金の一部を留保して自分と他の兄弟たちをだまし取ろうとすることは、人間に対してではなく神に対して嘘をついていたことになるということです。

上記の例は聖書の規則を証明するのに十分であることを私たちは理解しています。話すこと、悲しいことなど、個人の行動を神とキリストの「霊」によるものとしている他のすべての文章は、この章で学んだ聖書の規則を適用することで簡単に説明できます。行為は常に聖霊の所有者、つまり神またはキリストに帰せられなければなりません。

マタイ 28:19 の洗礼

「それゆえ、行って、すべての国民を弟子とし、父と子と聖霊の名によって彼らにバプテスマを授けなさい」マタイ 28:19

この章の私たちの目的は、聖霊との関連で上記の引用が述べていることの観点から上記の引用を分析することです。その信憑性や、正しいバプテスマの方法を決定する権威については、ここでは触れません。これについては、本書の後半で説明します。
今のところ、この引用に関して 2 つの点を分析したいと思います。

1- マタイ 28:19 は聖霊が人格であることを証明していますか?

その聖句には「父と子と聖霊の名によって彼らにバプテスマを授けている」と書かれています。
私たちは、彼が聖霊が人格であるとは言っていないことに注意してください。実際、この聖句には「人格」という言葉さえありません。彼はただ聖霊の名においてバプテスマを命じているだけです。この聖句に「聖霊の御名によって…彼らにバプテスマを授ける」と書かれているので、聖霊は人格であると言っていると結論付けることができるでしょうか?私たちは、何かの名のもとに行動を起こすことが、それが人間であることを証明するものではないことを知っています。私たちは例を挙げます：「あなたは法の名のもとに逮捕される」。法律は人ではありませんが、「人を逮捕する」という行為はその人の名前で行うことができます。法の名において人を逮捕しても、その法が人であることを証明しないのと同様に、聖霊の名において人にバプテスマを授けても、その人が人であることは証明されません。したがって、私たちの聖書に書かれているように見えるマタイ 28:19 は、聖霊が人格であることを証明していないことがわかります。

2 – マタイ 28:19 は聖霊が神であることを証明していますか?

この聖句には、聖霊が神であるとも書かれていません。実際、この聖句には「神」という言葉さえ出てきません。したがって、「父と子と聖霊」について言及していますが、父の名前は言及されていますが、彼が神であるとは述べていないため、父が神であることを証明するとしても明確な聖句ではありません。この聖句が聖霊の名によるバプテスマを命じているという事実は、彼が人格であることを証明するものではないことをすでに見てきました。これが神であることを証明するにはどうすればよいでしょうか？

3 - この聖句の中で聖霊が父と子とともに言及されているという事実は、私たちにこの三人の間に平等の感覚を与えているのではないでしょうか？

Machine Translated by Google

聖書を分析すると、イエスご自身が次のように述べているように、3 人の名前が一緒に言及されているという事実は、御子に御父との平等を与えるものではないことがわかります。

「もしあなたが私を愛していれば、私が父のもとに行くことを喜ぶでしょう。父は私よりも偉大だからです。」
ヨハネ 14:28

イエスは、父はご自身よりも偉大であると明確に言いました。したがって、マタイ 28:19 でイエスが父とともに言及されているという事実は、イエスが父と同等であることを意味しないことは明らかです。この節の霊 ?もし父と子について単に言及しただけで、誰かに彼らと同等の地位を与えたとしたら、この基準を使用すれば、聖書の中で一緒に言及されているように、選出された天の天使たちはすべて彼らと同等であると正当にみなされることになります。 - 見る：

「神とキリスト•イエスと選ばれた天使たちの前で、私はあなたたちに、これらの勧告を妨げることなく守り、決して不公平なことをしないようにお願いします。」テモテへの手紙 5:21

この聖句では天使が神やイエスと一緒に言及されているので、彼らは神、または権威において父と子と同等の人々であると考えられるべきであると理解するのはばかげていることを私たちは知っています。上記の聖句をマタイ 28:19 の本文と合わせて分析したのと同じ基準を使用して、聖霊が父と子とともに言及されたからといって、聖霊が彼らと同等になるわけでも、聖霊が父と子と同等であるわけでもないことがわかります。神 "。

- II コリント13:13 (14)

「主イエス•キリストの恵みと神の愛と聖霊の交わりが皆さんとともにありますように。」 IIコリント 13:13 (一部の聖書では 14)

前のセクションでマタイ 28:19 を分析すると、同じ聖句の中で父、子、聖霊という名前が言及されていることは、聖霊が父や子と同等の人物であることを証明するものではないことがわかります。神。したがって、イエス、神、聖霊という名前が上の聖句（ Iコリント 13:13)で言及されているという事実は、聖霊が父と子に等しい人物であること、あるいは聖霊が父と子に等しい人物であることを証明するものではないことは明らかです。神。そして、この同じ基準によって、この 3 人の名前が登場する聖書の他のすべての節を理解することができます。したがって、本書ではそれらすべてを分析するつもりはありません。

上記の聖句には、少し混乱を引き起こす可能性のある用語があります。それは「聖霊の交わり」です。この用語を正しく理解するための鍵は、注意深く読むことです。このテキストには「聖霊との交わり」ではなく、「聖霊の交わり」と書かれていることに注意してください。聖霊「と」の交わりと言ったら、ここでは一人の人間として理解されるべきです。なぜなら、私たちは一人の人としか「」交わることができないからです。しかし、本文には聖霊「OF」の交わりと書かれています。この言葉は、誰もが同じ御霊を受け、それによって団結し、同じ意見を持つようになるという意味です。二人の人が同じ意見を持っているとき、私たちは通常、彼らは同じ御霊を持っていると言いますよね？パウロがコリント人たちに手紙を書いたとき、これが彼らに対する願いでした。

Machine Translated by Google

聖霊の交わり – 彼らは同じ御霊を持っており、したがって同じ性質と同じ意見で団結していたということです。

「というのは、ユダヤ人であろうとギリシャ人であろうと、奴隷であろうと自由民であろうと、私たちは一つの御霊によってバプテスマを受けて一つの体になったからです。そして私たちは皆、一つの御霊を飲まされました。」 Iコリント 12:14

「兄弟たち、私たちの主イエス•キリストの御名によってお願いします。あなたがた全員が同じことを話し、あなたがたの間に分裂がないようにしてください。むしろ、同じ精神的性質、同じ意見で、完全に団結しなさい。」 Iコリント 1:10

ヘブライ語の「エチャド」と「エロヒム」

ヘブライ語の「エカド」と「エロヒム」は神が複数の人格であることを証明しており、それには聖霊も「神」であることが含まれるだろうという神学者の言葉を多くの人が耳にします。ほとんどの人はヘブライ語を知らないので、そのような主張に異議を唱える人はほとんどいません。しかし、ヘブライ語を知らなくても、ヘブライ語を母語とするユダヤ人が神は一人であると信じていることは容易にわかります。確認するには、正統派ユダヤ人に両親の宗教について尋ねてください。これは、エカドとエロヒムという言葉に関する現代の神学者の主張に何か間違いがあるかもしれないという証拠です。このセクションでは、聖書に照らしてこの2つの言葉の意味をどのように理解できるかを確認していきます。

言語が異なれば、構造的に大きな違いがあります。したがって、ポルトガル語以外の言語で書かれたテキストを分析する場合、ポルトガル語の文法規則を単純に使用して適用することはできないことを考慮する必要があります。
ただし、言語間には違いがあるものの、構造的な類似点もあることも考慮する必要があります。したがって、他の言語の特定の単語や文を分析するときに、ポルトガル語で使用される文法規則や解釈規則が同じである場合があります。これらのケースの 1 つは、ポルトガル語の「one」という単語で発生し、対応するヘブライ語の翻訳は「echad」になります。ポルトガル語の「1」という言葉の意味と意味は、ヘブライ語で「エチャド」と読まれる対応する言葉の意味とまったく同じです。ヘブライ語 - ポルトガル語辞書 (辞書) に記載されている「エチャド」という単語の唯一の意味は、「1 つ」です (http://www.blueletterbible.org/tmp_dir/words/2/1164725880-7020.html を参照)。

ポルトガル語では、「one」という言葉は常にユニークなものを指すのに使用されます。車 1 台、ウェイター 1 台、コンピュータ 1 台、ガソリン スタンドの店員 1 人、友人 1 人、と言えます。これらすべての場合において、1 つの物体または 1 人の人物を指すために ONE という単語を使用します。また、「1 つ」という言葉は、1 つの目的、1 つの好意、1 つの愛情などの抽象的な用語に関連して使用することもできます。しかし、これらすべての場合において、私たちの言語における「一つ」という言葉の意味は、他に存在しないという意味で常に「一つ」です。たとえば、「ジョンは車を持っています」と言った場合、誰も彼が 2 台または 3 台の車を持っているとは思わないでしょう。ジョアンが車を一台しか持っていないことは誰もが理解するでしょう。ポルトガル語の「1」という言葉の意味は私たちには明確に聞こえます。したがって、Iコリント 8:6 の聖書本文はそのままです。

Machine Translated by Google

ポルトガル語のほぼすべての聖書に記載されており、神の数について明確な答えが得られます。そこには「私たちにとって唯一の神、父がおられる」と書かれています。そしてそれは次のように理解されます：私たち（この場合、本文の著者であるパウロと、彼と一致して理解した使徒たち）にとって、神は一つです（唯一の神、神である人の単一の単位）、父（神であるこの唯一の人が父です）。このテキストは決定的かつ排他的なものです。それは、どれだけの人が「神」であるかを決定的に表現しているため、決定的です。そして、神として提示された方、つまり父以外の誰も「神」であることが排除されるため、排他的です。

ヘブライ語の「エチャド」という言葉は、ポルトガル語の「一」という言葉とまったく同じ意味と意味を持っています。それは常に「1」を意味し、「2」や「3」を意味することはありません。この言葉は旧約聖書に952回出てきますが、毎回同じ言葉で訳されるわけではありませんが、聖書ではどの場合も「一つ」を意味するものとして訳されています。それが登場するテキストの文脈を読めば、理解することができます (会議の場合は、正確にはhttp://www.blueletterbible.org/tmp_dir/words/2/1164725880-7020.html)。

これ。 見る：

Gen.のテキスト。 3:22 には ECHAD という単語が含まれており、三位一体論者によって自分たちの考えを支持して広く使用されています。しかし、注意深く読むだけで、この聖句の中で ECHAD という言葉が「神」である人が複数存在することを証明するものではないことがはっきりとわかります。

見てみましょう：

「そして主なる神は言われた、見よ、その人は我々の一人（エチャド）のようになり、善悪を知るようになった…」

*(上記の聖句の「ONE」という単語は、原文の ECHAD という単語の翻訳です)。

この節は次のように始まっていることに注意してください。「そして彼らは言われた」ではなく、「そして主なる神は言われた」。発言したのが 1 人であることを暗示したい場合、「disse」という単語は複数形の「disseram」ではなく単数形で使用されます。ここでは神が一人の人物として表現されていることは明らかです。上の本文が明らかにしているのは、神という一人の人間が、人間は彼らの一人のようになり、善悪を知るようになった、と別の人に語ったということです。この時点では、天の天使たちさえも、サタンがそこから追放される前にサタンと一緒に暮らしていたため、すでに悪について知っていました。したがって、「私たちの一人」という表現にはすべての天使が含まれる可能性があります。私たちは、それが天使を神にするのではなく、アダムとイブがその瞬間から知り始めたように、天使もすでに悪を知っていたことを示しているだけであることをよく知っています。

さて、これを理解した上で、申命記の有名なフレーズを読んでみましょう。 6:4:

（シェマ•イスラエル、アドニヤ•エロヘヌ、アドニヤ•エチャド）
「イスラエルよ、私たちの神、主よ、主は 」 ドイツ語。 6:4 (原文に忠実な翻訳)

本文自体に（主は唯一である）と書かれているように、「私たちの神、主」は人々の集団ではなく、一人であることがわかります。

Machine Translated by Google

解釈において多くの混乱が生じているもう 1 つの単語は、ヘブライ語の四文法で「エロヒム」と読み、ポルトガル語では「主」と訳されます。

エロヒムという言葉は、原語では一人の人物と複数の人物の両方を指すのに使用されています。 2 つの例を挙げます。

ある人:

エクソ。 7:1 「そこで主はモーセに言われた、『見よ、わたしはあなたをファラオの上の神（エロヒム)とした。』」

複数人:

詩篇 82:6: 「私は言いました。あなたたちは神 (エロヒム) です…」。

私たちは、エロヒムという言葉が神に対して使われる場合、一人の人を指すのか、それとも複数の人を指すのかを知りたいのです。次に、エロヒムという言葉がいつ単数形で使われ、いつ複数形で使われるのかを知る必要があります。答えは簡単です。文章の文脈によるものです。
ルールを理解するために、上記の 2 つのテキストを再度分析してみましょう。

エクソ。 7:1 「そのとき、主はモーセに言われた、『見よ、わたしはあなたを神（エロヒム)とした』
ファラオのことだ。」

上の文では、神は一人の人称代名詞「TE」を使って一人の人間であるモーセに呼びかけ、「見よ、私はあなたを神（エロヒム)にしました」とエロヒムという言葉を彼に当てています。この場合、エロヒムという言葉が一人の人（モーセ)を指していることは明らかです。次に 2 番目のテキストを分析してみましょう。

詩篇 82:6: 「私は言いました、あなたは神 (エロヒム) です...」。

上の聖句では、誰かが複数人に複数の人称代名詞「あなた」を使い、エロヒムと呼んでいます。「あなたは神（エロヒム)です。したがって、ここでエロヒムという言葉が人以上のものを指すために使われているのは明らかです。 。

上記のどちらの場合でも、ELOHIM という単語が単数形で使用されるか複数形で使用されるかを決定するのは、その文章の文脈であったことがわかります。したがって、神を指す「エロヒム」という言葉が単数形で使用されるか複数形で使用されるかを決定するのは文脈です。
この方法は安全です。なぜなら、この方法では、神の言葉そのものが（この場合はその文脈を通して)それが提示するものの意味を説明しているからです。

エロヒムという言葉は神を直接指しており、旧約聖書には 2346 回出てきます。聖句の文脈を分析すると、エロヒム（神)への言及が常に単数形で行われていることがわかります。研究が広範になりすぎないように、ここではほんの数例を挙げます。

* (すべてを検索したい場合は、 http://
www.blueletterbible.org/tmp_dir/words/g/1164729137-9926.html を参照してください):

Machine Translated by Google

「初めに神は天と地を創造されました」創世記1:1 (この聖句では、「創造された」と単数形で書かれており、複数形で「創造された」と書かれていないことに注意してください。したがって、この場合、エロヒムという言葉が単数形で使用されている場合、それが一人の人物を指していることは明らかです。唯一の神）

「私たちの神、主（エロヒム)はホレブで私たちに語られました…」 1:6 (この聖句では、神は単数形、すなわち一人の人物で「語られた」と言っており、複数形、すなわち複数の場合の「語られた」ではないことに注意してください)

「そして神は言われた、『私たちの姿に似せて人間を造ろう』」 1:26

上の聖句では、単数形で「and SAID」が正しく表現されており、「and SAID」ではないことに注意してください。これは、神(エロヒム) 1 人だけが話しているためです。エロヒムが複数の人物を意味するのであれば、この聖句はこう言うべきです：そして神は言いました。この場合、この聖句だけでなく、神を単数形で指すエロヒムという単語を表す旧約聖書の 2000 を超える聖書の聖句もすべて変更される必要があります。

したがって、エロヒムという言葉は、神を指す場合には常に単数形で使用され、神を一人の人物として表していることが明らかになります。

セント•セント•セイント

「すると彼らは互いに叫び合って言った、『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主。全地が神の栄光に満ちている。」イザヤ書 6:3

「そして、それぞれ 6 つの翼を持つ 4 つの生き物は、周囲と内部に目でいっぱいです。彼らには昼も夜も休みがなく、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能の神、主はかつて、今、そして来られる方である」と宣言している。」アポック。 4:8

上の 2 つの聖句は、聖霊についてさえ言及していませんが、力と権威において同等の 3 つの至高の存在が天に存在することの証拠として多くの人に理解されています。しかし、両方の聖句を注意深く読むと、これが彼らの言っていることではないことがわかります。以下の太字の言葉に重点を置きながら、上の聖句からの抜粋をもう一度提示しましょう。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、主…全地は主の栄光に満ちている」イザヤ6:3

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能の神、主は、かつて、今、そして来られる方です。」アポック。 4:8

上の聖句で強調表示されている単語にはどのような共通点がありますか?それらはすべて「単数形」であり、複数形ではありません。私たちは一人の人を指す場合、単数形の単語を使います。複数を指す場合は複数形を使用します。さて、もし私たち人間が言葉の使い方を知っていて、単数形と複数形の違いを理解できるようになれば、さらに神は素晴らしいことでしょう。もし神が聖句の中で複数の人物について言及したかったのなら、

Machine Translated by Google

上では、3 人がいて、3 人全員が 1 つの神であることを理解してもらうために、私なら次のように書きます。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、主は……全地は主の栄光に満ちている」イザヤ書 6:3

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、主なる神、全能者、かつていた人たち、今いる人たち、そしてこれから来る人たち」アポック。 4:8

しかし、それは私たちが聖書で読んでいる方法ではありませんよね？したがって、神が単数形の用語を使用することによって、上記の各節でただ 1 人の人物について言及していることは明らかです。したがって、これらの聖句の中で「聖人」という言葉が 3 回出てくるという事実は、それらが複数の人物について話しているという意味ではないことは明らかです。私たちは聖霊を聖霊の中に含まれる人格として理解するためには、聖書に暴力を加えることなく理解することはできません。では、「聖なる、聖なる、聖なる」という繰り返しは何を意味するのでしょうか？聖書を読むと、何かを強調するために繰り返しが使われていることに気づきます。以下を参照してください。

「ひっくり返して、ひっくり返して、ひっくり返して、私はそれを置きます、そしてそれが正当に属する人が来るまで、そして私は彼にそれを与えます。」エゼキエル書 21:27

預言者は神の霊感を受けて、悔い改めないイスラエルの民にエルサレムが破壊されるという完全な確信を与えるために、上の聖句の中に「挫折」という言葉を三回書きました。
彼はメッセージを強調するために同じ言葉を3回使いました。 「聖なる、聖なる、聖なる」という繰り返しでも同じことが理解できます。これは、上の聖句で言及されている「主」というお方は聖なるお方であり、したがって私たちはこのことを完全に確信し、主をそのようなものとして考え、崇拝しなければならないという事実を強調するために使用されています。

パート2

第1章 「神」は何人いるのか？

あなたが友達の輪の中にいたとき、突然誰かが会話を中断して、「テーブルの上にあるその贈り物は誰のためのものですか」と言ったところを想像してみてください。彼の友人の一人は、「それは私のためだ」と即座に答えました。読者の皆さんに尋ねたいのですが、「このレポートによると、プレゼントは何人に贈られるのですか?」発言した人が「私のため」と言ったことに注目すると、誰もが自然に「ただ一人のため」と答えるでしょう。それは「私たち」のためではなく「私のため」と言われたからです。単数代名詞「MIM」は人数 (1 人) を定義することに注意してください。贈り物が複数の人への場合は、「私たち」と言うのが正しい選択肢です。

さて、聖書に出てくる同様の事例を見てみましょう。

「あなたには私の前に他の神があってはならない」エクソ。 20:3

Machine Translated by Google

これが第一の戒めです。どれだけの人が彼に従順を求めているでしょうか ?代名詞「MIM」（私たちではありません）が使用されていることに注意してください。この戒めに従うことを求めているのはただ一人であることは明らかです。このひとはだれ ?読みましょう ：

「それから神はこれらすべての言葉を語ってこう言われた。 ……あなたにはわたしのほかに神が存在してはならない。 」出エジプト記 20:1、3

一人の「神」が服従を求めています。したがって、律法の第一戒に書かれていることから、神が一人であることは明らかです。第一戒のあからさまな違反によってこれらの異なる人々が一人の神であると言われているとしても、私たちが「神」であると認識したり受け入れたりできるのは 2 人か 3 人だけです。そこに、そのあらゆるバリエーションにおける三位一体の教義の問題が横たわっています。これは、「父と子と聖霊」の三人が一人の神を構成していることを教えていますが、戒めは神が一人であることを教えています。したがって、三位一体の教義を受け入れることは、第一戒に違反することを意味します。天の目から見れば、これは単なる意見の問題ではありません。すべての人が天の法廷で裁かれるのは神の律法の基準によるものであり、次の戒めのいずれかに公然と違反していることを知りながら天の法廷に出廷したいと思う人はいないと私たちは信じています。

「私たちは皆、神の裁きの座の前に出るからです。 」ロム。 14:10

聖書の中で最も信頼できる箇所は十戒の記述ですが、これには理由があります。聖書全体は神の霊感を受けて人間によって書かれたものですが、戒めは人間によって書かれたものではなく、言葉として神ご自身によって書かれたからです。宣言します:

「そしてシナイ山で彼との会話を終えたとき、彼は神の指で書かれた二枚の石の板をモーセに与えた……そしてモーセは向きを変え、二枚の証しの板を手に持って山から下りた。両面が書かれた板…その板は神の作品でした。また、その文字は石板に刻まれた神の文字と同じであった」出エジプト記 31:18

したがって、聖書のすべての聖句の信憑性を疑うことはできても、十戒の信憑性を疑うことはできません。十戒は、神ご自身が指で書き、それが歪められないように保存されているからです。それは人間が彼らを知り、従うことができるようにするためです。そして、どれだけの人が「神」であるかについては、反対の証拠が提示されているにもかかわらず、この戒めは無視できないほど明白です。そして、証言したのは彼だけではない。聖書の他のいくつかの箇所では、神は一人であると述べられています。

「今、私は存在し、私だけであり、私以外に神はいないということを見てください。私は殺し、生かします。私は傷を負い、私は癒します。そして、誰かを私の手から救い出すことのできる人は誰もいません。 」ドイツ語。 32:39

「わたしのほかに神はいないからである」イザヤ書 45:21

上記の両方の箇所で、神は「私」と「私」という言葉を使用し、ご自身を一人の人間であると呼んでいることに注意してください。男性である私たちが使い方を知っていれば、

Machine Translated by Google

「私」や「私」という言葉は、神はもちろんのこと、一人の人（私たち個人）を指すときにも使います。

「神は一つですから」ロム。 3:30

「神は唯一であると信じますか？君はよくやるよ。」ヤコブ 2:19

第2章 神とは誰ですか?

2.1 - 戒め

この戒めは神が一人であることを宣言しています。この神は誰ですか？聖書のヨハネ 15 章 10 節を開いて、イエスの言葉を読んでみましょう。

「わたしは父の戒めを守りました」ヨハネ15:10

イエスは父の戒めを守ったと言いましたが、「あなたにはわたしの前に他の神があってはならない」という最初の戒めが重要であることは明らかです。 20:3 はイエスの父の戒めです。父なる神は、私たちに神の前に他の神が存在してはならないと命じておられる方です。したがって、戒めによれば、神はただ一人である父です。

2.2 – イエスの証言

私たちは、イエスが真理を明らかにするために神によってこの世に遣わされたことを知っています。イエスはヨハネ 14:6 で、ご自身が「真理」であると言いました。

「イエスは彼に答えられた、『わたしが道であり真理である』」ヨハネ14:6

これは、イエスが決して嘘をつかなかったということを意味します。私たちはイエスが言ったことはすべて真実だと信じることができます。イエスの言葉によれば、私たちは完全な安全を持っています。彼らは確かに私たちを永遠の命への安全な道に導いてくれるので、私たちは彼らに信仰を置くことができます。

それでは、神とは誰であるかについてイエスが何と言っているか見てみましょう。ヨハネ 17:1,3 を読んでみましょう。

「イエスはこれらのことを話し終えると、目を天に上げて言われました。『父よ、その時が来ました…そして、これが永遠の命であり、彼らが唯一のまことの神であるあなたを知ることができるのです。」ヨハネ 17:1、3

Machine Translated by Google

この箇所で、イエスが父が唯一の真の神であると言われたことがわかります。ユニークという言葉はどういう意味ですか?他にはないということです。イエスは、父以外に神はいないとはっきり言いました。

- 父は私よりも偉大です - ヨハネ 14:28

多くの人はイエスが父と同じように神であると考えています。しかし、イエスご自身は、父はご自分よりも偉大であると言われました。ヨハネ 14:28 の本文を読んでみましょう。

「イエスは答えました…父は私よりも偉大です。」ヨハネ 14:23、28

神である父はイエスよりも偉大です。

- 私と父は一つです - ヨハネ 10:30

ある時、ユダヤ人たちはイエスが自分も「神」であると言っているのだと考えました。しかしイエスは、彼らがそのような印象を持たれないように、彼らを正されました。ヨハネ 10:29-36 の記述を読んでみましょう。

「父が私に与えてくださったものは何よりも偉大です。そして誰もそれを父の手から奪うことはできません。私と父は一つです。

再びユダヤ人たちは石を拾って投げつけました。イエスは彼らに言った、「私は父からの多くの良い行いをあなたたちに示しました。どっちのせいで私に石を投げるの？
ユダヤ人たちは彼に答えた、「私たちがあなたに石を投げるのは、良い行いのためではなく、神を冒涜するためです。なぜなら、あなたは人間であるのに、自分を神としているからです。」

イエスは彼らに答えられた：「あなた方の律法にはこう書いてあるではないか。私はこう言った、『あなた方は神だ』と。」もし神が神の言葉が宛てられた人々に神々を呼び、聖書が失敗するはずがないとしたら、父が神聖なものとして世に遣わした者について、あなたはこう言うだろう、あなたは冒涜だ。 「私は神の子であると宣言したからですか？」ヨハネ 10:29-36

イエスが「わたしと父は一つである」と言ったとき、ユダヤ人たちはイエスが父とともに「神」であることを意味していると考えましたが、イエスはその言葉の意味を明確にし、誤解のないように、イエスは真実であると説明されました。彼は「私は神の子です」と言いました。以下のダイアログの概要を参照してください。

「父が私に与えてくれたものは何よりも偉大です。そして誰もそれを父の手から奪うことはできません。私と父は一つです。 ...

ユダヤ人たちは彼に答えました： ...、私は宣 言しました：私は神の子です」ヨハネ10:29-36 あなたは自分自身を神にしてしまうのです。イエスは彼らにこう答えました。

- イエスの神

Machine Translated by Google

イエスご自身も、父がご自身の神であることを認められました。マタイ 27:46 を参照してください。

「9時ごろ、イエスは大声で叫んで言われた、『エリ、エリ、ラマ•サバクタニ？』それはどういう意味ですか：わが神、わが神、なぜあなたは私をお見捨てになったのですか？」マタ 27:46。

多くの人は、イエスが復活した後、神として存在するようになったと理解しています。しかし、イエスが復活された後も、父をご自分の神として認められたことがわかります。彼は、私たちの父なる神は神の神でもある、と言いました – ヨハネ 20:17:

「イエスは彼にこう勧めました。 ……わたしの兄弟たちのところに行って、こう言いなさい。わたしはわたしの父であり、あなたがたの父である、わたしの神であり、あなたがたの神のもとに上ります。」ヨハネ 20:17。

もしイエスが父を自分の神として認めているなら、彼は父としての神ではありえません。

2.3 – 使徒教会の証言

復活後、この地上での使命が完了すると、イエスは天に昇られました。
彼は、彼の聖なる唇から出た真理を保存し、それを世界に宣言する責任を負った人々のグループ、つまり彼の教会を地上に残しました。使徒パウロは、自分が宣べ伝えた真理をイエスご自身から受け取ったと述べています。ガラテヤ 1:11、12 を読んでみましょう。

「しかし、兄弟たち、わたしが宣べ伝えた福音は、人によってではなく、イエス•キリストの啓示によって伝えられることを、あなたたちに知っておいてください。」ガラテヤ 1:11、12

使徒たちはイエスから学んだことを宣べ伝えました。パウロはコリント人に手紙を書き、イエスから学んだこと、つまり使徒教会の信仰の宣言を記録しました。読んでみましょう。

「天にも地にも、神と呼ばれる人々もいますが、多くの神や多くの主がいるように、私たちにとって神はただ一人、父であるからです。」
I Cor. 8:5、6

パウロもまた、手紙の中で何度も唯一の神、父に対する信仰を表明しました。
エペソ書の一節を読むことができます。 1:3; 4:6;テモテへの第一の手紙 2:5;叔母。 2:19;ロム。 1:7; Iコリント 1:3; IIコリント 1:2; ギャル。 1:3、4;エフ。 1:2;フィル。 1:2;コロサイ 1:2;私はテス。 1:1; II テス。 1:2。

使徒教会にとって、神はただ一人、父であることは明らかでした。使徒たちは、イエスが父と同等の神であることを理解していませんでした。彼らは、イエスが神の子であることを理解していました。読んでみましょう：

「父なる神と父の御子イエス•キリストからの恵みと憐れみと平安が私たちとともにあるであろう」 IIヨハネ3章

「私たちの主イエス•キリストの父なる神がほめたたえられますように…」エペソ 14:14 1:3

Machine Translated by Google

使徒ペテロは、上記の聖句を書いたパウロとヨハネに同意しました – ペテロ第一 1:3:

「私たちの主イエス•キリストの父なる神がほめたたえられますように…」ペテロ第一 1:3

2.4 – 旧約聖書の証言

これまでのところ、神が何人いるのか、そして誰がいるのかについて、第一戒で神が教えたこと、神が遣わしたイエス、そして神の真理を世界に伝えるためにイエスから遣わされた使徒たちの間に教えられたことの間には調和があることがわかります。神は。 （戒めにより）神、イエス、そして使徒教会の三人は、神はただ一人、「父」であると教えています。
旧約聖書でも、聖書は明確に、一つしかないことを教えています。
父なる神イザヤ書 45:21,22 を読んでみましょう。

「わたしのほかに神はいないからです。わたしのほかに義なる神も救い主もいないからです。……わたしは神であり、他には誰もいないからです。」イザヤ書 45:21、22

同じ真実が旧約聖書の他のいくつかの箇所でも表現されています。参照したい場合に備えて、そのうちのいくつかの参考文献を引用します: Exo。 20:3;ドイツ語。 4:35、39; 5:6、7; 6:4;いさ。 44:6、8; 45:18、21、22; 46:9。

旧約聖書全体だけでなく、新約聖書でも、聖書で神について言及されている箇所はすべて単数形であり、複数形ではないことにも注意してください。一人の人物について言及したい場合、私たちは常に単数形の言及を使用します。ここではいくつかの例を示します。

「神は言われた、『私たちの姿に似せて人を造ろう』」 創世記 1:26 (単数形で「言った」と書かれていることに注意してください。神が複数の人物である場合、テキストは「神は言った」と読む必要があります)。

私たちがここで真理を学んでいるので、どんなに単純であっても、誰でもはっきりと真理を理解することができます。神の御言葉を読み、神を信じることによって、私たちは真実を知ることができます。

2.5 – 翻訳が不十分な聖書の引用

聖書には、原文からの翻訳が不十分であったり、誤解されたりして、神が複数存在するという認識を人々に与えている箇所もあります。
しかし、これらの文書が原文と一致していない、または誤解されている最大の証拠は、神は唯一である、父であるという戒めによって明らかにされたイエスと使徒たちの真理に反する記述が含まれていることです。

原文と一致しない箇所を引用します: ヨハネ第一 5:7。ローマ人への手紙 9:5。テトス 2:13。ジュード4;ヨハネ 1:1。ヨハネ 1:18。ヘブライ人への手紙 1:8。

疑問を避けるために、上記の各テキストについて簡単にコメントしましょう。

Machine Translated by Google

- ヨハネ第一 5:7:

この節に登場する「地上で証しするのは父、御言葉、聖霊の三人であり、その三人は一つである」というフレーズは、聖書の原文には存在しません。おそらく、このテキストは、あなたの手にある聖書の中で角括弧内に表示されます (この記号: [_ _ _])。そして、エルサレム聖書の注釈は、その本文がオリジナルに属していないことを非常に明確にしています。
見て：

「vv.のテキスト。 7-8は、Vulg.deに、古代ギリシャ語の文書、古代バージョン、およびVulg.の最良の文書にはなかった切り込み（以下の括弧内)が追加されており、本文の後半で紹介される余白の光沢であるように見えます。 「というのは、証しする者が三人いるからです（天には父、御言葉、聖霊、そしてこの三人は一つです。そして地上には証しする者が三人います） :御霊、水、血、そしてこれらの者です。三つは一つだ。 」エルサレム聖書、第 3 刷り、2004 年、16 頁。 2132、2133 (ヨハネ第一 5:7 の脚注コメント – 強調追加)

上記の文を追加せずに、最も忠実なオリジナルのバージョンに従ってテキストを以下に示します。

「それを証するものは三つある、すなわち御霊、水、血であり、その三つは一つの目的で団結しているからである。」ヨハネ第一 5:7

ヨハネ第一 5章7節の原文に属さない人為の部分が加えられた本文は、三位一体の教義が聖書的であることの証拠として多くの人に提示されています。しかし、追加のテキストなしで聖句を読むと、それが三位一体の存在を証明していないことが非常に明らかになります。それは神の霊、水と血についてのみ語られています。

- ローマ 9:5:

アメリカ改訂最新版などの聖書の一部の翻訳では、イエスは神であると書かれているようです。私たちは、ローマ人への手紙がパウロによって書かれたことを知っています。パウロはコリント人に「唯一の神、父がおられる」（ Iコリント 8:6)と書いたのと同じパウロです。パウロは神の霊感のもとに執筆しており、決して自分自身と矛盾することはありませんでした。彼はローマ人への手紙の中で、一年前にコリント人への手紙に書いたことと矛盾するつもりはありませんでした。したがって、ロムのテキストが次のとおりであることは明らかです。 9:5 は、イエスが神でもあることを示唆するバージョンで誤訳されています。

以下は、原文に最も忠実な翻訳であり、改訂および更新されたアメリカ訳を含む、聖書の一部のバージョンの脚注に記載されています。

「彼らは族長であり、キリストも彼らの子孫です。万物の上におられる神に永遠の賛美あれ！」ローマ人への手紙 9:5

Machine Translated by Google

- ティト 2:13:

この箇所にも誤訳があります。今すぐこのテキストを聖書で読んでみてください。いくつかの聖書の読み方からすると、この手紙を書いたパウロはキリストも神であると教えているようです。それは真実ではありません。彼は、神の霊感を受けて、戒め、イエスの教え、そして彼自身が他の手紙に書いたことに反することは書きませんでした（ Iコリント8:6、エペソ4:6、Iテモテ2:5） ）。以下は原文に最も忠実な翻訳であり、神、キリスト、使徒の教えと調和しています。

「祝福された希望と、私たちの偉大な神と私たちの救い主イエス•キリストの栄光の出現を求めています」テトス 2:13

- ヨハネ 1:18:

疑問を引き起こし、一部の聖書で翻訳が不十分であると思われるもう一つの聖句は、ヨハネ 1:18 です。

古いバージョンでは、イエス•キリストはこの節で「独り子」として示されています。
しかし、聖書の現代翻訳のほとんどでは、イエスは「独り子」と呼ばれています。これは、現代の読者にイエスが父と同じ「神」であると信じさせようとする翻訳者の努力であるように見えますが、それは神の言葉の純粋な真実を歪曲し、読者を誤解させます。以下に、より原文に忠実な古いバージョンの聖書に従って本文を示します。

「誰も神を見たことがありません。父の懐にいる独り子こそが御子を現した方である』ヨハネ1:18

- ユダ 4:

翻訳に問題があるもう 1 つのテキストはユダ 4 節です。聖書で読んでください。最近の翻訳で示されているように、このテキストはイエスが唯一の主権者であることを暗示しています。しかし、これは聖書に矛盾することになります。テモテ第一 6 章15節と16節を読んでください。そこには「誰も見たことのない方」（つまり、父なる神）が唯一の主権者であると書かれています。

「それは祝福された唯一の主権者、王の中の王、主の中の主によって明らかにされるでしょう。不死性を持ち、近づくことのできない光の中に住んでおり、誰も見たことも見ることもできない唯一の人です。」テモテ第一 6:15、16

上の本文で「唯一の主権者」として言及されている「誰も見たことのない」唯一の人は父です。なぜなら、イエスに関して言えば、イエスが地上にいたとき、12人の弟子だけでなく他の多くの人もイエスを見たからです。 。御言葉自体は次のように述べています。「誰も神、独り子を見たことがありません...神を現したのは神です。」ヨハネ 1:18。それは「神」と「子」を二つの別個の存在として分離し、神だけが誰にも見えていないことを明確にします。

Machine Translated by Google

神の霊感を受けてテモテに手紙を書いたのはパウロでした。その中で、父が唯一の主権者であることが明確に説明されているのがわかります。神の霊感を受けて書いたジュードは、同じ神の霊感を受けてパウロが書いたことと決して矛盾しないでしょう。神は混乱の神ではありません。また、もしイエスが唯一の主権者であるとしたら、イエスは父の主権者となるだろうか、とも付け加えます。地上で父親を召使として持つ従順な子がいるでしょうか。これは自然の摂理に反しているので、私たち人間にとっても意味が通じないだけでなく、御言葉の真理にも反しています。これは、父なる神が御子の下ではなく、御子の上におられることを明らかにしています。

「すべてを支配する唯一の神でありすべての父である」エペソ4:6

「御子ご自身も、万物をご自分に従わせた方に自らを従わせるでしょう。
すべてにおいて神がすべてであってください」 1コリント15:28

以下はユダ書 4 章のテキストの最も忠実な翻訳です。
父は唯一の主権者であり、聖書の啓示、さらには物事の自然な秩序と調和しています。

「というのは、ある特定の人々が、この断罪をずっと前から宣告されていた、不敬虔な人々であり、唯一の主権者である私たちの神と私たちの主イエス•キリストの恵みを放縦に変える不敬虔な人々であり、同化せずに忍び込んできたからである。」
ユダ 4

- ヨハネ 1:1:

翻訳に問題があるもう一つの聖句は、ヨハネ 1:1 です。ぜひこの聖句を聖書で読んでみてください。読み方によっては、少なくとも初め、地上に来る前の段階では、イエスは神であったと言っていることになります。もしこれが真実であれば、それは第一の戒めだけでなく、使徒ヨハネ自身がこの同じ福音書のヨハネ 17:3 で書いた、父は唯一の神であると述べたことにも反することになります。

「そして、これは永遠の命であり、彼らが唯一のまことの神であるあなたを知るためです」ヨハネ17:3

しかし、ヨハネ 1 章 1 節の本文は誤訳されました。原文のギリシャ語からの最も忠実な翻訳は次のとおりです。

「初めにことばがあった、ことばは神の中にあった、そして神はことばであった。神は初めに神の中にあった」ヨハネ1:1
（原文に忠実な訳）

この聖句が言っているのは、最初にイエスは神の内にいたということです。どうすればいいの ?単純：

イエスは神の子です。息子は父から生まれたので、息子にすぎません。聖書では、「生む」という用語は、自然で嫡出の子供を指すのに使用されています - 創世記 5:3 の例を参照してください。

Machine Translated by Google

「アダムは百三十歳を生き、その姿に似せて息子を産み、その名をセトと名づけた」創世記 5:3

セブンは妻イブとの結合から生まれたので、文字通りアダムの息子でした。神の言葉は、セツを文字通りアダムから生まれた息子であると説明するために「生まれた」という言葉を使用しています。
望む人は誰でも、創世記 5 章全体と、聖書の系図 (両親とそれぞれの子供の名前の記録) に言及している他のすべての箇所を読んで、神の言葉が常に「」という表現を使用していることを自分自身で確認することができます。 「beget」は文字通りの子供たちを指します。セツに関しては、今読んだ本文の中で、やはり「アダムの似姿」、「彼の姿」に従った息子であると言われています。これは聖書の文字通りの息子についての説明です。聖書はこれと同じ用語を使って、イエスが文字通りの正当な神の父であることを示しています。ヘブライ人への手紙 1 章 5 節を見てみましょう。

「というのは、私は天使の誰に向かって、『あなたは私の子です、私は今日あなたを産みました』と言ったことがありますか？そしてもう一度、「私は彼の父になり、彼は私の息子になるでしょうか？」ヘブライ人への手紙 1:5

神がアダムの胸の高さにある肋骨からイブを形作ったように、キリストも父の胸から来られました。イエスご自身も、ご自分は父から来たと言いました。見てみましょう：

ヨハネ 17:8 を読んでみましょう。そこでイエスは、 「彼らは…わたしがあなたから来たことを知っていました」と言いました（ヨハネ17 :8）。

それで、イエスご自身も、ご自分は父から来た、つまり、嫡子がこの地上で父から生まれたのと同じように、父から生まれたと言いました。明らかです。

イエスは地上に来てマリアから生まれたときに初めて息子として生まれたと考える人もいます。
しかし、イエスはピラトに、自分はこの世に来る前に生まれたと言いました - ヨハネ 18:37 を読んでください。

「イエスは答えられた、『あなたは私が王だと言っています。私はこのために生まれ、このために世界にやって来ました。」ヨハネ 18:37

最初に彼は自分が生まれたと言い、次に彼はこの世に来たと言います。したがって、イエスご自身が、この世に来る前に天国で生まれたことを示しています。

- ヘブライ人への手紙 1:8

最後に、ヘブライ人への手紙 1 章 8 節の本文についてコメントします。聖書のほとんどの翻訳によれば、その本文は御父ご自身がキリストを「神」と呼んでいることを示しています。しかし、この文章はもともとパウロによって書かれたもので、コリント人、テモテ (Iテモテ 2:5)、エペソ人 (エペソ 4:6) に「神はただ一人、父である」と書いたのと同じパウロです。

明らかに、パウロは神の霊感を受けて書いており、他の教会に手紙を書くときにすでに何度も繰り返したことと矛盾するものではありません。このテキストの翻訳は不十分です。
パウロはヘブライ人への手紙 1章8節で詩篇 46篇5節の言葉を引用しています。詩篇 46:5 を読んで、ヘブライ人への手紙 1:8 の本文と比較して確認してください。このテキストの原文への最も忠実な翻訳は次のとおりです。

Machine Translated by Google

「あなたの王座は世々限りなく神のものである」詩篇 45:6

パウロは実際、キリストが父の王座を共有していると言っているのではなく、キリストが父と同等の神であると言っているのではなく、父なる人格以外に神を持ってはならないという第一の戒め自体に矛盾するようなことは書きたくないのです。

黙示録 17 章 3 節で「バビロン」と呼ばれる教皇庁（カトリック教会)が、ほとんどの聖書翻訳を担当しています。バビロンとは混乱を意味し、教皇庁が聖書を翻訳する際に行ったこと、つまりカトリック信仰の中心的な教義である三位一体の教義を聖書を読む人々に信じさせるための混乱を正確に表す良い名前です。しかし、この教義は非聖書的です。安息日や聖所などの聖書の教義は、常に神の言葉の中で明確に明らかにされていますが、「三位一体」という名前は聖書にも登場しません。

第 3 章 イエス•キリストとは誰ですか?

多くの人は、イエスを「神」ではない、あるいは権力や階層において父よりも劣っていると考えることによって、自分たちがイエスを貶めていると考えており、このようにして自分たちはサタンの働きをしているのだと考えています。キリストを貶めます。次のセクションではこれについて説明します。

- 神は私たちにイエスをどのように高めてほしいと望んでおられるか

聖書は、神が私たちにイエスを高めてほしいと望んでおられる理由を次のように示しています。

「キリスト•イエスにもあったこの思いを自分の中に持ちなさい。なぜならキリスト•イエスは神の姿をとっておられたので、神との平等を強奪とは考えなかったからだ。むしろ、神はご自身を滅ぼし、僕の姿をとり、人間と同じ姿になりました。そして人間の姿で認められたイエスはへりくだり、死に至るまで、さらには十字架の死に至るまで従順になりました。したがって、神はまたイエスを高く評価し、あらゆる名前に勝る名前を与え、イエスの名のもとに天も地も地もすべての膝をかがめ、すべての舌がイエス•キリストが主であると告白するようになりました。父なる神の栄光です。」ピリピ 2:5-11

上の聖句は、神が私たちにイエスを高めてほしいと望んでおられる理由を示しています。この箇所ではイエスの犠牲が強調されていることに注意してください。

「神の姿で存在していた彼は……しもべの姿をとり、自らを滅ぼした」
...

人間の姿で認識され、彼は謙虚になり、

死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順になるのです。」

Machine Translated by Google

この聖句には、イエスが屈辱を受ける過程が示されています。

1. 神以外の存在が宇宙において存在し得る最も崇高な場にあった神は、自らを消滅させ、僕の形をとって人間となった。

2 – 人間の姿で認識され、すでに人間の姿をしていたので、彼は自分自身をへりくだりました

3 – 彼は死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

物語は十字架で終わります。なぜなら、十字架上でキリストの犠牲は最高のレベルに達したからです。彼にはそれ以上できることは何もありませんでした。これ以上の犠牲はありえませんでした。
天国の最も高い場所から降り、罪と闇に汚染された宇宙で最も卑劣な場所に到着し、自分を宇宙で道徳的価値が最も低い存在、つまり神の敵である人間と同一視し、これらの人間に対して屈辱を与えるそして彼らの目の前で、彼らに気づかれずに命を捧げるという、これまでに知られた中で最も屈辱的な処刑の形で。本文はイエスの犠牲を報告した後、神がイエスを高めたのはこの理由であると宣言しています。

「したがって、神はまた彼を高く評価し、あらゆる名に勝る名を彼に与えました。」 ピリピ 2:9

上の本文の「なぜ」という言葉は、神が神を高めたのは、前の節で示された理由（天の法廷を去り、人間のためにご自身を捧げたキリストの犠牲）のためであったことを示しています。パウロ自身、神の御心に従順で、十字架上で完成されたキリストの犠牲を捧げましたが、これが彼の説教の最も重要なテーマでした。

「私たちは、ユダヤ人にとってはつまずきであり、異邦人にとっては愚かである、十字架につけられたキリストを宣べ伝えます…
なぜなら、私はあなたがたの間で、イエス•キリストと十字架につけられたイエス•キリスト以外には何も知らないと決心したからです。」コリント人への第一の手紙 1:24。 2:2

そして神は、神とパウロがイエスを高めたのと同じ理由で、私たちがイエスを高められることを期待しておられます。
私たちがイエスを神として認識するかどうかは、神が私たちにイエスを高めてほしいと期待している方法でイエスを高めないこととは何の関係もないことに注意してください。もし私たちがイエスを自分の人生の主として認め、そのためにイエスを讃美するなら、たとえ御言葉から神が唯一の父であることがわかるとしても、私たちは神が私たちに与えることを期待している敬意をイエスに捧げていることになります。

前の章では、神の言葉が唯一の神が存在し、それがイエス•キリストの父であることを明らかにしていることを見ました。では、もしイエスが父のような「神」ではないとしたら、受肉の前、受肉中、受肉後のイエスという人物について何と言えるでしょうか？この章では、昨日、今日、そして永遠にキリストというこのトピックを扱います。

- 初めに – 神の子

Machine Translated by Google

ヨハネの福音書の最初の節では、宇宙創造の働きが始まる前の、すべての始まりにおけるイエスの状況が描かれています。原文のギリシャ語からの最も忠実な翻訳は次のとおりです。

「初めに言葉があり、言葉は神の中にあり、神は言葉でした。彼は初めに神の中にあった」ヨハネ 1:1 (ギリシャ語原文への忠実な翻訳)

この聖句が言っているのは、最初にイエスは神の内にいたということです。だからこそ、「言葉は神の中にあった」と書かれているのです。どうすればいいの ?単純：

聖書は多くの箇所でイエスが「神の子」であると繰り返しています。イエスは自らこう言いました。「わたしは宣言した、『わたしは神の子である』」ヨハネ 10:36。神の言葉によれば、息子は父から生まれたため、単に「子」であるとされています。聖書では、「生む」という用語は、自然で嫡出の子供を指すために使用されています。創世記 5:3 の例を参照してください。

「アダムは百三十歳を生き、その姿に似せて息子を産み、その名をセトと名づけた」創世記 5:3

セブンは妻イブとの結合から生まれたので、文字通りアダムの息子でした。神の言葉は、セツを文字通りアダムから生まれた息子であると説明するために「生まれた」という言葉を使用しています。
望む人は誰でも、創世記 5 章全体と、聖書の系図 (両親とそれぞれの子供の名前の記録) に言及している他のすべての箇所を読んで、神の言葉が常に「」という表現を使用していることを自分自身で確認することができます。 「beget」は文字通りの子供たちを指します。セツに関しては、今読んだ本文の中で、やはり「アダムの似姿」、「彼の姿」に従った息子であると言われています。これは聖書の文字通りの息子についての説明です。聖書は同じ動詞「生む」を使って、イエスが文字通りの正当な神の父である神の子であることを示しています。

ヘブライ人への手紙 1:5 を見てみましょう。

「というのは、私は天使の誰に対して、『あなたは私の子です、私は今日あなたを産みました』と言ったことがありますか ?そしてもう一度、「私は彼の父になり、彼は私の息子になるでしょうか？」ヘブライ人への手紙 1:5

神がアダムの胸の高さにある肋骨からイブを形作ったように、キリストも父の胸から来られました。イエスご自身も、ご自分は父から来たと言いました。見てみましょう：

ヨハネ 17:8 を読んでみましょう。そこでイエスは、 「彼らは…わたしがあなたから来たことを知っていました」と言いました（ヨハネ17 :8）。

イエスご自身が、ご自分は父から来た、つまり、この地上で嫡子が父から生まれたのと同じように、父から生まれたと語ったことがわかります。

イエスは地上に来てマリアから生まれたときに初めて息子として生まれたと考える人もいます。
しかし、イエスはピラトに、自分はこの世に来る前に生まれたと言いました - ヨハネ 18:37 を読んでください。

「イエスは答えられた、『あなたは私が王だと言っています。私はこのために生まれ、このために世界にやって来ました。」ヨハネ 18:37

Machine Translated by Google

最初に彼は自分が生まれたと言い、次に彼はこの世に来たと言います。したがって、イエスご自身が、この世に来る前に天国で生まれたことを示しています。

- 彼は神の姿で存在した

「神の目に見えない属性、神の永遠の力、そして神自身の神性は、世界の初めからはっきりと認識されており、創造されたものを通して認識されているからです。」ローマ人への手紙 1:20

上の聖句は、創造されたものを通して神性さえも理解できることを示しています。したがって、父と子イエスの関係をより深く理解するために、聖書は創造された作品を通して存在する父と子の関係を分析するよう私たちに勧めています。したがって、人類は神の創造物の最高傑作であるため、人間の親子の関係を分析することほど良いことはありません。私たちはこれからこの比較を活用して、神の御子の性質と性格をよりよく理解できるようにしていきます。

私たちは、文字通り人間の息子が父親と同じ性質の体を持っていることを知っています。親は血と肉でできており、人間の子供もそのようにして生まれます。上で読んだローマ人への手紙 1 章 20 節で提案されている比較を使用すると、人間の子供が父親と同じ性質の体 (肉と骨) を持っているのと同じように、神の御子も次のようなものを持って生まれてきたことがわかります。そして私たちは、この真理が神の御言葉の中で明確に明らかにされていることに気づきます。

「キリスト•イエスは、神の姿をとっておられるので、神との平等を強盗とは考えられなかったからです。」フィル。 2:5、6

上の本文の「形」という言葉は、イエス•キリストが天におられたとき、父なる神と同じ肉体を持っていた、つまり子として同じ性質の体を持っていたという事実を表現するために使用されています。イエスの体がどのような物質で構成されていたのかは、今日私たちには分かりませんし、知ることも与えられていません。しかし、聖書は、キリストが地上に来られる前、父と子の両方の体が同じ構成を持っていたことを明らかにしています。

- 父親よりも若い

人間の父親から生まれた子供は皆、父親よりも若いことがわかっています。被造物である人間が神を明らかにするように、私たちは御子イエス•キリストもまた父なる神より若いに違いないことを知っており、これが聖書が明らかにしていることであることがわかります。父と子の「年齢」について彼女が言ったことに注目してください。

父について:

「山が生まれ、地と世界が形成される前から、永遠から永遠に、あなたは神です。」詩篇 90:2

Machine Translated by Google

上の文章は、永遠から永遠に至るまで、神はすでに存在していた、つまり神が存在しなかった事は一度もなかった、ということを示しています。

息子について:

「そして、ベツレヘム•エフラタよ、あなたは、数千のユダの集団のように見えるには小さすぎますが、あなたから、イスラエルを統治する者が私のもとに来ます。その起源は古代から、永遠の日からです。」ミカ書 5:2

上の文章はイエスに関する預言です。彼は、イエスの起源は永遠の時代にあると述べています。父と子の間に存在する違いに注目してください。

父：「永遠から永遠に、あなたは神です」 90:2
息子：「誰の起源は...永遠の日から」ミク。 5:2

御父が御子よりも先におられることは明らかです。常に存在していた父とは異なり、息子は永遠に生まれました。

- 父親と同じ性格

人間の息子は父親から性格特性を受け継ぎます。たとえば、親が喫煙していたために子供が喫煙するようになるケースは数多く見られます。彼らは両親から性格傾向を受け継ぎます。人間の親から子供への性格特性の伝達には不完全があるかもしれませんが、人間は不完全であるため、神からその子への性格特性の伝達に不完全があるとは考えられません。それは神が完全だからです。ヘブライ人への手紙を読むと、この信念が裏付けられていることがわかります。

「神は、過去に語りかけられました…この終わりの日に、御子を通して私たちに語りかけられました…彼は栄光の輝きであり、神の存在を正確に表現された方です。」ヘブライ人への手紙 1:1-3

上記の文中で使用されている「正確な表現」という用語は何を意味しますか? 「正確」という言葉は「完全に忠実な」という意味です。したがって、御子は父の「存在」の正確な表現であると言うことで、神の言葉は、御子がその人（または存在)の完全に忠実な表現、または複製であることを私たちに理解させようとしていることがわかります。これには、肉体的な形態と性格の両方が含まれます。神の性質は神の性質の表現であり、神の律法は神の性質の表現です。それはまた御子の性質の表現を帯びています。御子の性質は神の律法と同等であり、それと同じ高さ、神聖さを持っています。だからこそ、御子は、違反した法律に対する罰を自ら支払うことを申し出ることができたのです。罪深い人々のために御子を十字架で犠牲にすることによって、全宇宙が神の性質のゆえに、律法が要求したものにふさわしい代価が支払われたことを証言することができ、そして神は律法を悪化させることなく罪人を赦し、贖うことができるのです。

- 跡継ぎの息子

Machine Translated by Google

すべての人間の子供は、出生の権利により、父の財産の相続人です。
神は万物の所有者であり創造者であり、聖書は神が御子イエスを万物の相続人としたと宣言しています。

「神は…この終わりの日に、御子によって私たちに語りかけられ、神はその御子を万物の相続人に任命されました。」ヘブライ人への手紙 1:2

文字通りの御子として、御父は御子イエスを万物の相続者とされました。三位一体の教義が言うように、もしイエスが父と同等であり、永遠に同じであるなら、神はすでに父と同じくらい所有者であるため、神がイエスを万物の後継者とする必要はないでしょう。

- 父の名前の継承者

この地上に生まれた息子は、地上の父親の名前を受け継ぎます。例えば、シルバ•ジュニオール氏は父親であるシルバ氏の息子であるため、この名前になったと考えるのが自然です。被造物の自然な秩序は神性さえも明らかにするというのが聖書の原則であるため (ローマ 1:20)、イエス•キリストとその父なる神についても同じことが当てはまるはずであることがわかります。聖書 ?見てみましょう ：

「神は、過去、また預言者によってさまざまな形で父祖たちに語られましたが、この終わりの日には、御子によって私たちに語られ、御子を万物の後継者に任命されました…御子が受け継いだものと同じくらい天使たちよりも優れた者となりました」彼らよりも優れた名前だ」
ヘブライ人への手紙 1:1、2、4

上の聖句は、神がイエスを万物の後継者としたと述べており、これには神ご自身の名前も含まれている証拠として、御子イエスは天使たちよりも「優れた名を受け継いだ」と述べられています。別の文書では、イエスが受け継いだ名前がさらに明確に示されています。
その中で神がモーセに語られた言葉を読んでみましょう。

「それから神はこれらすべての言葉を語られました。……見よ、私はあなたの前に天使を送ります。道に沿ってあなたを守り、私が準備した場所にあなたを連れて行きます。」神に注意し、神の声に耳を傾け、神に反抗しないでください。神はあなたの罪を赦されないからです。彼の中に私の名前があるからです。」出エジプト記 20:1、20、21

御父はイエスを御使いと呼び、モーセに「わたしの名は彼の中にある」と言われます。神ご自身が、イエスがご自身の名前「神」を受け継いだことを明らかにされました。これではイエスが神になるわけではありません。
父親の名前を持つことは父親であることを意味するわけではありません、そう思いますか ?私は父親ではありません。父も私も別人ですが、私は父の名前を受け継いでいます。イエスにも同じことが起こります。イエスが父の名を受け継いだという事実は、注意深く読まないと聖書がイエスを「神」として表していると読者に誤解させる可能性のある聖書のいくつかの文章を説明しています。
ここではそれらを紹介します。

「私たちに子供が生まれ、私たちに息子が与えられたからです。政府は彼の肩に乗っています。そして彼の名前は次のようになります ：素晴らしいカウンセラー、力強い神、永遠の父、王子
平和;"イザヤ書 9:6

Machine Translated by Google

上の文章はイエスについて語っています。彼が「彼の名前」は「強大な神」になると言っていることに注意してください。 「彼は強い神になる」とは言っていません。この聖句が証明しているのは、イエスが子として父の名を受け継いだということであり、イエスが神であるということではない。

「見よ、処女はみごもって男の子を産む。その子はインマヌエル（つまり、神が私たちと共におられる）と呼ばれるだろう。」マタイ 1:23

上の文章でもイエスについて語られています。 「彼はインマヌエル（私たちと共におられる神）の名で呼ばれるでしょう」と書かれていることに注目してください。神が私たちと共に神になるとは言っていません。この事例は、私たちが分析したイザヤ書 9章6節の事例と同じです。

- 地上 – 人の子

聖書には、神がイエスが生まれる体を造られたと書かれています。

「あなたが望まなかった犠牲と捧げ物。しかし、あなたはわたしの体を形作ったのです」ヘブライ人への手紙 10:5

心霊主義では、実体は肉体を帯びることができると説いています。聖書にはそうは書いていないので、私たちはこれを信じません。したがって、上記の聖句からは、イエスが天で持っていたのと同じ神の体を持って人間の体に入り、1つの体内に2つの体、つまり活動する1体（人間）が存在するようになったということは理解できません。そして、変容のときのように、時折現れる非活動的なもの（神聖なもの）。この概念は、多くの人は知りませんが、精神主義的なものです。ほとんどの人はこれと非常に似ていると信じていますが、それは神の言葉が明らかにしていることではありません。聖書の啓示によれば、神がマリアの胎内でイエスの体を形成されたという事実は、イエスが人間として生まれたことを示しています。地上に来る前に天上で所有していた神体は完全に消滅した

消滅しました。これは神の御言葉がピリピ人への手紙で私たちに告げていることです。以下を参照してください。

「キリスト•イエスが神の姿をとられたとき、神と同等であることを強盗とは考えなかったように、この心をあなたの中に持ちなさい。しかし、彼はご自身を滅ぼし、召使いの姿をとり、人間に似せて造られたのです」 ピリピ人への手紙 2:5-7 (アルメイダ訳訳)

「annihilate」という言葉には「破壊する、無にする」という意味があります。したがって、上記の聖句の「ご自身を滅ぼされた」という用語は、御父と同じ性質を持つイエスの体が破壊され、無になったことを意味します。父なる神は、御自分と同じような体を持つ御子を永遠に持つことを止められました。それは、その体が破壊され、無に帰したからです。イエスは神の独り子でした。したがって、父は永遠に、ご自分の体を反映した息子を二度と持つことはありません。フィリピ人への手紙の一節は、イエスが「人間と同じように造られた僕」の姿をとられたことを示しています。受肉以来、イエスは人間の体だけを持ち、文字通りの意味で人間でした。御父は御子を、もはや御自身の肉体を反映した者としてではなく、（御父から生まれたので）人間の体を持った出自による御子の御子として愛するでしょう。彼は御子の人格の中に人類を見るでしょう。

これは、イエスが地上にいる間、何度も神の子また人の子と呼ばれていたという事実を説明しています。ここでは例として 2 つの文章だけを引用します。

Machine Translated by Google

「すると、舟に乗っていた人たちが来てイエスを拝んで言った、『あなたはそうです』
まさに神の子です。」マタイ 14:33

「イエスは彼らに言われた、『あなたが言いましたね。しかし、私はあなたに言います、あなたはすぐに人の子を見るでしょう
全能者の右に座し、天の雲に乗ってやって来る。」マタイ 26:64

イエスは、父によって生み出されたので、起源的には常に神の子です。それは最初に存在したとき、神から生まれました。しかし、受肉によって人間の体を持った「人の子」となったのです。神の言葉がピリピ人への手紙 2 章 6 節で、それは滅ぼされた（全滅した）と述べているように、彼は神の御子の体を再び持つことはできませんでした。私たちが今読んだマタイ 26:64 の聖句で、イエスは人の子として二度目に地上に戻ると言われていることに注意してください。

「人の子が全能者の右に座し、天の雲に乗って来るのが間もなく見えるでしょう。」マタイ 26:64

イエスが二度目に地上に戻ったとしても、依然として人の子であることを明らかにされたことが分かります。

- 男として、彼は自分では何もできなかった

これまでのところ、イエスが地上にいたとき、私たちと同じような人間の体を持っていたことは明らかです。しかし、神は私たちにはない超自然的な力を持っているのでしょうか？彼は特別な力を持つ一種の「神人」なのだろうか？イエスが地上にいたとき、ご自身について何と言われたかを見てみましょう。

「私一人では何もできません」ヨハネ5:30

本人も「自分ではどうすることもできない」と語っていた。自分では何もできない私たちと同じように、主もまたそうでした。では、イエスはどのようにして奇跡を起こし、人々を癒したのでしょうか？使徒行伝の一節を読んでみましょう。

「イスラエルの人たちよ、この言葉を聞いてください。ナザレのイエスは、奇跡と不思議としるしをもってあなたの前で神に認められた人です。あなた方も知っているように、神ご自身が彼を通してあなた方の間でそれを行ってくださいました。」使徒行伝 2:22

そしてイエスはこう言いました。

「私があなたたちに話す言葉は、私自身について話しているのではありません。わたしのうちにおられる父が御業をなしてくださいます。」ヨハネ 14:10

上記の聖句から、イエスを通して奇跡を行ったのはイエスの父である神であることがわかります。私たちは自分自身で人を癒したり、奇跡を起こしたりすることはできません。イエス様にもそれはできませんでした。イエスがこの地上にいたとき、私たちと同じように肉体的に限界のある人間であったことは明らかです。そして信仰によって受けた神の力によって奇跡や慈悲の業を行うことができるかどうか。もし彼が法律に完全に従順だったら、

Machine Translated by Google

彼が地上に住んでいたときに彼を強めた父の力。私たちもイエスと同じように十戒をすべて守ることができ、イエスへの信仰を通して神の力を受けることができます。イエスを信じる信仰によって、私たちはイエスと同じように完全になることができます。

- 復活後 – 骨と肉の人

イエスが復活されたとき、イエスは引き続き人間であり、人間の体を持っていたのでしょうか、それとも他の体を持って存在し続けたのでしょうか?イエスが復活された後、弟子たちに現れたときに何と言われたかを見てみましょう。

「イエスが彼らの間に現れて言われたとき、彼らはまだこれらのことを話していました。「あなたたちに平和がありますように！」しかし、彼らは驚き、怯えて、霊を見ているのだと信じました。
しかしイエスは彼らに言った、「なぜあなたがたは悩んでいるのか」。そしてなぜあなたの心に疑いが生じるのでしょうか？
私の手と足を見てください、それが私です。私を感じて確認してください。なぜなら、私が持っているように、霊には肉と骨がないからです。そう言って、彼は彼らに自分の手と足を見せました。」ルカ 24:36-40

イエスご自身も、復活後に弟子たちに現れたとき、自分は血と肉のある人間であると述べました。そしてパウロはテモテへの手紙の中で、イエスは今日天にいて私たちの仲介者として働いていると宣言しています。

「神は一人であり、神と人との間の仲介者も一人である、それが人であるキリスト•イエスだからです。」テモテ第一 2:5

したがって、私たちの天の父である神とその子供である私たちの間には、仲介者である人間、イエス•キリストが存在します。御言葉によれば、彼は人間であり、今日も天国で人間として私たちのために執り成しをしてくれています。使徒パウロは、私たちを呼ぶことを恥じてはいないと明言しています。
男性 - 兄弟 - ヘブライ語を参照。 2:11と17:

「彼は彼らを兄弟と呼ぶことを恥ずかしく思っていません...

「神に関係する事柄において忠実な大祭司となるために、イエスがあらゆることにおいて兄弟のようになるのはふさわしいことだった。」ヘブライ人への手紙 2:11、17

したがって、今日、私たちには、私たちに代わって神と執り成してくれる私たちの種族の兄弟、つまり男性イエス•キリストがいます。

- 彼の中には神性のすべてが宿っている

"キリスト;なぜなら、彼の中には神性の満ち足りたすべてが肉体的に宿っているからである。」
コロサイ 2:8、9

上の文章はイエスが復活された後にパウロによって書かれました。この文書は、キリストのうちに「神性のすべてが満ち満ちている」と書かれているため、イエスが今日、天において御父とともに神となるであろうという証拠として多くの人に使われています。しかし、それは何ですか

Machine Translated by Google

神は私たちに理解してもらいたいのでしょうか？これまで私たちは、イエスが今日天にいる人間であることを聖書が明確に明らかにしていることを見てきました。上記の文章は、神の言葉がすでに明らかにしたことと矛盾するものではありません。神は混乱の神ではありません。私たちは、上の文章からは、他の箇所で与えられている聖書自身の啓示を無視して、イエスが神であることしか理解できません。したがって、上記の文の意味が異なることは明らかです。この箇所は神の言葉と調和してどのように理解されますか?別の箇所と比較することで、その点に到達することができます。聖書は、私たちは神の満ち足りた気持ちで満たされることができると述べています。

「それは、あなたがたがすべての聖徒たちとともに、広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人知を超えたキリストの愛を知ることができ、すべての満ち足りたもので満たされるためである」神の 。 "エペソ人への手紙 3:18、19

上の聖句によれば、私たち人間は神の満ち足りた「すべて」で満たされることができます。 「toda」という言葉は「todo」の女性形で、完全な、完全な、何も取り残さないという意味です。この聖句は、私たちが神の完全な満ち足りた状態から引き離される可能性があることを意味します。しかし、たとえ聖書のこの約束が私たちの人生で成就したとしても、それによって私たちは神になるわけではないことを私たちは知っています。

私たちは人間であり続けますが、私たちが得るものは、神の性質、つまり聖性が私たちの生活の中に完全に現れるということです。上の文章は、私たちが神の聖性のすべてを手に入れ、所有されることを望む神の願望を表しています。これは神の満ち足りたものを持つことです。

ここでイエスの例に戻りましょう。聖句には、彼の中に神性のすべてが宿っていると書かれています。聖書の他の箇所の啓示から、イエスが今日私たちと同じように血と肉を持った人間であることを私たちは知っています。また、神がイエスを私たちの模範として定めておられることも私たちは知っています。神の私たちに対する望みが、私たちが神の聖性の満ちあふれることで満たされることであるとすれば、それはイエスが確かに神の聖性の満ちあふれることで満たされたからです。神はイエスが達成できなかったことを私たちに求めません。ここで、イエスが人間であると断言する聖書の他の箇所を乱暴に扱うことなく、コロサイ 2章8、9節の本文を理解する方法がわかります。イエスの中に満ちる神性が宿ると神は言うとき、イエスの中に満ち満ちた聖性が宿るという事実を指しているのです。コロサイ 2 章 8 節と 9 節の文脈を注意深く分析すると、パウロが言及していたのはキリストの聖さに関するものであり、キリストが「神」であるかどうかを証明するという事実ではないことがわかります。

「今、あなたは主であるキリスト•イエスを受け入れたのだから、教えられたとおりに、キリストのうちに歩み、キリストに根ざし、信仰を築き、確し、感謝のうちに成長しなさい。
キリストによらず、人間の伝統や世界の初歩に従って、誰もあなたを彼らの哲学や無駄な機微に巻き込むことがないように気をつけてください。なぜなら、彼の中には神の完全性がすべて肉体的に宿っているからである。」コロサイ 2:6-9

上の節でコロサイ人へのパウロの勧めは、コロサイ人がイエスの模範に従うことを目的としており、次のように述べていることに注意してください。

「あなたは主キリスト•イエスを受け入れたのですから、教えられたとおりにキリストのうちを歩みなさい。」
コロサイ 2:6、7

Machine Translated by Google

この聖句に続いて、パウロはキリストの模範から逸脱しないようにと勧めています。

「だれも自分の哲学やむなしい欺瞞にあなたを陥れないように気をつけなさい…キリストによらず、世の初歩に従って」コロサイ 2:8

次にパウロは、彼らがキリストの模範から逸脱してはならない理由を示します。
なぜなら、神聖さの満ち足りたものが神のうちに宿っているからです（この言葉の意味）
本文中の神性):

「なぜなら、彼の中には神性のすべてが肉体的に宿っているからです。」コロサイ 2:9

イエスは私たちの聖性のモデルであるため、私たちはイエスの内に留まることでのみ、聖性の基準に従って自分の性格を形作ることができます。これは、パウロが本文の後半で、私たちが完全になるのは主の内にとどまることによってであることを明確にする際に、別の言葉で言っているものです。

「彼にあってあなたも完全にされるのです。」コロサイ 2:10

「神性」という言葉は、私たちが達成しなければならないものとしてキリストに帰せられたものであることに注目してください。
パウロは、私たちはキリストから逸脱すべきではないと言います。なぜなら、神性の満ち足りた心がキリストのうちに宿っており、もし私たちがキリストの中に留まるならば、私たちは完全になるからです。もし「神性」という言葉が、イエスが神であることを示す目的で使われたとしたら、パウロは人間に達成不可能な理想を提示していることになるでしょう。なぜなら、人間がどれだけキリストの中に留まっても、人間は決して神にはならないからです。これまで人間についた最大の嘘は、蛇がエバに対して、自分は神と同等になれるという嘘でした(創世記3:5参照)。不可能だよ。

第3章 洗礼/結論

- マタイ 28:19 の洗礼

「それゆえ、行って、すべての国民を弟子とし、父と神の名において彼らに洗礼を授けなさい。
御子、そして聖霊よ」

この聖句は、今日の聖書に示されているように、複数の神、父が存在することを証明するものではありませんが（これは本文で扱われる主題ではないため）、多くの人々によって次の証拠として使用されています。私たちは父と子と聖霊の名においてバプテスマを授けるべきです。しかし、ルカの福音書を研究すると、マタイ 28:19 に見られる弟子を作るというイエスの同じ命令が注釈されていることがわかります。

しかし、ルカの本文では、イエスは彼らに自分の名においてそれを行うよう命じています。

「イエスは……聖書を理解するために彼らの理解を広げてくださいました。そして彼らに言った、 「このように」
キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえると書かれています。

Machine Translated by Google

神の御名において、悔い改めと罪の赦しがエルサレムから始まるすべての国々に宣べ伝えられるべきである。」ルカ 24:44-47

私たちは今、解決すべきジレンマを抱えています。マタイ 28 章 19 節では、イエスが三人の弟子を作るよう命令しているのに対し、ルカはイエスの名において罪の赦しのための悔い改めを宣べ伝えるよう命令しています。 2 つの命令のうち、本当にイエスの命令はどれでしょうか?
使徒行伝の文章は、弟子たちがどのようにイエスの命令に従い、その従順に対して神の祝福を受けたかを報告しているので、問題は解決されています。読みましょう：

「そしてペテロは彼らに言った。『悔い改めて、罪の赦しのために、あなたがた一人一人、イエス•キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。』 ...そこで、彼の言葉を喜んで受け入れた人々はバプテスマを受けました。そしてその日、ほぼ3000人の魂が追加されました。 ... すべての魂の中に恐れがあり、使徒たちは多くの不思議としるしを行いました。使徒 2:38、41、43。

「するとペテロは、『わたしには金も銀も持っていないが、持っているものをあなたにあげよう』と言いました。ナザレのイエス•キリストの名において、ち上がって歩きなさい。 ……あなたたち全員とイスラエルのすべての人々に知られていることですが、あなたたちが十字架につけ、神が死人の中からよみがえらせたナザレのイエス•キリストの名において、彼はその名において全身全霊であなたたちの前にっておられます。」
使徒 3:6; 4:10

「しかし彼らは、神の国とイエス•キリストの名について宣べ伝えたフィリポを信じたので、男女ともにバプテスマを受けました。 使徒 8:12

「しかし、パウロは困って、振り返って霊に言いました。「イエス•キリストの御名によって、この女から出て行けと命じます。」そしてすぐに出て行った。」 使徒 16:18

「それは、天においても、地においても、地の下においても、イエスの御名によってすべての膝がかがむようにするためである。」フィリピ 2:10

どの注文が履行されたかは明らかです。マタイ 28:19 にあるように、聖書には、父と子と聖霊の名においてバプテスマ、奇跡、説教がなされたという事例は報告されていません。誰もがイエス•キリストの名において説教するというルカの命令に従います。上の最後のテキストは、すべての膝がかがむのは父、子、聖霊の名ではなく、「イエスの名」であると述べています。マタイ 28:19 は、現代の聖書で読むとその本文が聖書全体と調和していないため、翻訳にいくつかの問題があることは明らかです。現代の聖書に載っているマタイ 28:19 の正当性を擁護するために、当時はイエスの名がユダヤ人と使徒の間で議論の対象になっていたため、当時はすべてがイエスの名において行われたと言う人もいます。 。しかし、使徒行伝 19 章の本文を分析すると、この議論は崩れます。

「パウロはエフェソスに来て、そこで何人かの弟子たちを見つけて彼らに言った、「あなたがたは信じたときに聖霊を受けましたか？ 」彼らは彼に言った、「聖霊が存在するということを私たちはまだ聞いていません。」それから彼は彼らに尋ねました、「では、あなたは何のバプテスマを受けていますか？」彼らは言った、「ヨハネのバプテスマで。しかしパウロは、確かにヨハネは悔い改めのバプテスマを授け、自分の後に来る方、つまりイエスを信じるように人々に言いました」と言いました。

Machine Translated by Google

キリスト。そして聞いた人たちは主イエスの名によって洗礼を受けました。そしてパウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が彼らの上に臨んだ。そして彼らは異言を話し、預言した。」使徒 19:1-6

上の聖句は、バプテスマのヨハネからバプテスマを受けたエフェソスの一部の信者の事例を述べています。彼らはパウロに、「聖霊がいらっしゃるなんて聞いたこともありません。」と言いました。したがって、彼らがマタイ 28:19 で命じられているように、父と子と聖霊の名によってバプテスマを受けていないことは明らかです。もし彼らが三人の名によって洗礼を受けていたら、彼らは間違いなく聖霊の存在について聞いたでしょう。この箇所はさらに、これらの信者たちが「主イエスの名によってバプテスマを受けた」とき、「聖霊が彼らの上に臨み」、彼らが異言を話し、預言したと述べています。ここで、天そのものがイエスの名による洗礼のみを認めていたことが明らかになります。弟子たちが当時、イエスの名において洗礼を授けたのではなく、それはユダヤ人と争う名前だったからではなく、むしろルカに示されているキリストの命令に従って、イエスの名において洗礼を授けたことは明らかです。

エペソの信者たちは別の洗礼（この場合はヨハネの洗礼)を受けていましたが、彼らが高い所から力を受けたのはイエスの名によって洗礼を受けた後でした。天はイエスの命令以外の洗礼によって聖霊を遣わすことはありません。したがって、イエスがご自身の名においてバプテスマを命じられたことは明らかであり、現代聖書に掲載されているマタイ 28:19 の本文には翻訳ミスが含まれています。また、ルカに示されているイエスの命令とも調和していません。実際、カイサリアのエウセビオスの古代訳は、ルカと使徒言行録に含まれる真理と調和する方法でマタイ 28:19 の本文を提示しています。

「それゆえ、行って弟子を作り、わたしの名において彼らにバプテスマを授けなさい…」マタイ 28:19

マタイ 28:19 の本文の翻訳が不十分であることを認識するのに、原語を知っている必要も、神学を勉強している必要もなかったことに注意してください。私たちが自分たちの言語で持っている聖書本文を、一節一節比較しながら注意深く祈りながら研究することは、私たちを真理に導きます。考古学や古代史によれば、上で紹介したカイサリアのエウセビオスのバージョンが、父、子、聖霊の名による洗礼を示すバージョンよりも信頼できることを証明する必要はないことに注意してください。この主題に関連する箇所で提示されている真実自体は、2 つのバージョンのうち、エウセビオス (私の名において彼らに洗礼を授けた) のバージョンが、聖書の証言と矛盾しないため、唯一正しいことを示しています。この本で紹介されているすべてのことに同じことが当てはまります。神は祈りながら勉強する幼い子供たちに神の真理を示すと約束されました。そして、大多数の神学者や偉大な宗教指導者によって疑問視され、信じられず、軽蔑されている真実が、キリストの謙虚な追随者によって発見されるたびに、師の言葉は成就します。

「イエスは言われた、『天と地の主よ、父よ、あなたがこれらのことを賢明で学識のある者たちに隠し、幼子たちに明らかにしてくださったことに感謝します。』マタイ 11:25

したがって、牧師、教会指導者、神学博士、その他の有名な聖書学者や説教者が聖書の証言を受け入れなくても、心配する必要はありません。
これらの人々の誰の影響力も、彼ら全員の影響力も許さないようにしましょう。

Machine Translated by Google

断食と祈りによる熱心な研究の末に発見された、心からの聖書の真理の真珠を私たちから取り上げてください。人間の教えではなく、神の言葉を信仰と実践の唯一の指針としなさい。私たちに関して聖書の言葉が成就しますように。

「預言者にはこう書いてあります。そして彼らは皆、神によって教えられるでしょう。」ヨハネ 6:45

「聖書は子供の最初の説明書であるべきです。親はこの本から賢明な教えを与えるべきです。神の言葉が人生の規則でなければなりません。彼女を通して、子供たちは神が父親であることを学びます。そして神の言葉の美しい教訓から、彼らは神の性格についての知識を得る必要があります。」

保護者、教師、生徒へのアドバイスのページ。 108と109。

我々は持っています